名所千題發句集

下

911.3
メ
下

名所千題集下之目録

廿之巻

○國郡之部 并 都 古屋鋪 臺

山城 ○山城 ウ四ノ ○六波羅 ウ一ノ ○六條 ウ一ノ ○錦小路 ウ一ノ

○上京 ヲ三 ○通圓茶屋 ウ三ノ ○羅城門 ウ四ノ ○九條 ウ四ノ ○五條 ヲ十五ノ

○三條 ウ五ノ ○京 ヲ六ノ 都 ウ六ノ ○下京 ヲ七ノ ○四條 ヲ七ノ

○千本通 ヲ八ノ 大和 西ノ京 ウ一ノ ○奈良 ヲ四 河内

○河内 ヲ三 攝津 難波 ヲ四ノ ○福原 ウ四ノ 伊賀

○伊賀 ヲ一ノ 伊勢 ○伊勢 ヲ一ノ 三河 ○三河 ウ六ノ

駿河 ○駿河 ヲ八ノ 甲斐 鶴ノ郡 ウ三ノ 伊豆

○伊豆 ウ一ノ 相模 ○和田屋鋪 ヲ二ノ ○鎌倉 ウ二ノ ○津久井縣 ウ三ノ

武藏 ○葛飾 ウ三ノ ○多摩郡 ウ三ノ ○目白臺 ウ六ノ ○駿河臺 ウ八ノ

安房 ○安房 ヲ五ノ 下總 ○下総 ウ七ノ ○鴻之臺 ヲ五ノ

近江 ○近江 ウ五ノ ○志賀郡 ウ七ノ ○志賀郡 ウ七ノ 信濃

○信濃 ヲ八ノ ○更級郡 ウ五ノ 陸奥 ○陸奥 ヲ七ノ ○高舘 ヲ三ノ

○伊達郡 ヲ三ノ ○信夫郡 ヲ八ノ 丹波 ○丹波 ヲ三ノ 紀伊

○紀伊 ヲ六

○里之部 并村 揃里

遠里 ヲ廿ノ 山里 ヲ廿ノ 麓里 ヲ廿ノ 古里 ウ廿ノ 小里 ウ廿ノ

○瓶村 ヲ廿ノ 里人 ヲ廿ノ ○漁村 ヲ廿ノ

山城 岩倉里 ウ廿ノ 鳥羽里 ヲ廿一 桂ノ里 ウ廿一 加茂里 ヲ廿二

竹田里 ヲ廿二 紀ノ里 ヲ廿三 玉水里 ヲ廿三 宇治 ヲ廿五 椿津里 ヲ廿五

井手里 ウ廿五 ○御室里 ウ廿五 久瀬里 ヲ廿六 矢脊里 ウ廿六 山嵜 ウ廿六

山科 ヲ廿七 深草里 ウ廿七 木幡里 ヲ廿八 嵯峨 ウ廿九 ○西院邑 ウ廿九

○北嵯峨 ヲ卅 ○島原 ウ卅 ○下河原 ウ卅 ○撞木町 ウ卅一 芹生里 ヲ卅二

○墨染 ウ卅三 大和 石上 ウ卅ノ 吉野里 ウ卅三 國栖里 ヲ卅六

布留里 ウ卅七 籠口 ヲ十八 ○後兎邑 ヲ卅八 飛鳥里 ヲ十九 秋篠里 ウ十九

佐野 ヲ卅 ○木辻 ヲ卅 三輪里 ヲ卅一 ○龍兎邑 ヲ卅三 河内

高安里 ウ卅三 攝津 ○神崎里 ヲ卅三 津守里 ヲ十四 長柄里 ヲ十五

○野田里ウ十五　江口里ヲ卅九　湞磨里ヲ卌四　［伊賀］　○花垣莊ヲ廿一

［伊勢］　○多氣里ウ廿三　○日永里ウ卅一　［尾張］　夜寒里ウ廿二

寐覺里ウ十四　［三河］　○方歳村ヲ廿七　［駿河］　○一言村ヲ卅三

［相模］　○曽我中村ウ廿三　○雪下ウ卅　［武藏］　○池上ウ卅

○六月邑ヲ廿一　○秩父ウ廿一　田面里ウ廿三　○染井邑ヲ十四　○根岸里ウ廿四

○大袋村ヲ十六　○小梅邑　戀ヶ窪ウ十八　○新吉原京町ヲ卅二　○目黒ウ卅

○箕輪ヲ十五　○新吉原ヲ廿二　○日暮里ヲ廿三　闗家里ウ廿三　○巣鴨ヲ卌四

○杉田邑ウ卌四　［下総］　葛西村ウ廿二　［常陸］　○潮來ウ卅

［近江］　○臍邑ヲ十一　黒津里ヲ十六　眞野里ヲ十七　○蹴上ウ十七

○浅妻ウ十九　志賀里ヲ廿二　滋樂里ウ廿二　○柴屋町　［美濃］

笠縫里ウ廿三　野上里ウ十五　［信濃］　○妻科里ヲ十四　岐岨ウ卅

○清水里ウ廿二　［上野］　○小雨邑ウ十八　○潟呂木ウ卅一　○廣沢里ウ卅三

［陸奥］　十府里ウ十一　木下ヲ十九　信夫里ウ廿一　［越後］

○妻有郷ウ十四　○鬼伏ウ十六

○驛之部　并町市辻

○京ノ町ヲ卅五　○濵ノ町ヲ卅五　○片町ヲ卅　○四辻ウ卅五　○外町ウ卅五

○野町ウ卅五　○追分ヲ卅六　○山ノ町ヲ卅六　○山市ヲ卅六　○藪ノ町ウ卅六

○麓町ウ卅六

［山城］　○帷子辻ヲ卅八　○淀ウ卅八　○室町ウ卅九　○伏見ヲ卌

○野田里ウ十五 江口里ヲ十九 須磨里ヲ廿四 【伊賀】○花垣荘ヲ廿
【伊勢】○多氣里ウ十二 ○日永里ウ廿一 【尾張】夜寒里ウ十二
寐覺里ウ十四 【三河】○万歳村ヲ十七 【駿河】○一言村ヲ廿三
【相模】○曽我中村ウ十三 ○雪下ウ廿 【武蔵】○池上ウ十
○六月邑ヲ十 ○秩父ウ十二 田面里ウ十三 ○染井邑ヲ十四 ○根岸里ウ十四
○大袋村ヲ十六 ○小梅邑 戀ヶ窪ウ十八 ○新吉原京町ヲ廿二 ○目黒ウ廿
○箕輪ヲ廿 ○新吉原ヲ廿二 ○日暮里ヲ廿三 関家里ウ廿三 ○巣鴨ヲ廿四
○杉田邑ウ廿四 【下総】葛西村ウ十二 【常陸】○潮来ウ十
○鴫邑シ十 黒津里ヲ十六 真野里ヲ十七 ○蹴上ウ十七
【近江】
○浅妻ウ十九 志賀里ヲ十二 滋樂里ウ廿二 ○柴屋町 【美濃】

笠縫里ウ十三 野上里ウ十五 【信濃】○妻科里ヲ十四 岐岨ウ廿
○清水里ウ廿二 【上野】○小雨邑ウ十八 ○渭呂木ウ廿一 ○廣沢里ヲ廿三
【陸奥】十符里ウ十一 木下ヲ十九 信夫里ウ廿一 【越後】
○妻有郷ウ十四 ○鬼伏ヲ十六
○驛之部 并町市辻
○京ノ町ヲ廿五 ○濵ノ町ヲ廿五 ○片町ヲ廿 ○四辻ウ廿五 ○外町ウ廿五
○野町ウ廿五 ○追分ヲ廿六 ○山ノ町ヲ廿六 ○山市ヲ廿六 ○藪ノ町ウ廿六
○籠町ウ廿六
【山城】○帷子辻ヲ廿八 ○淀ウ廿八 ○室町ウ廿九 ○伏見ノ三十

○御幸町ウ三十二 ○木屋町ヲ三十四 大和 初瀬ヲ廿七 ○辰ノ市ウ十八
○高取ヲ廿九 椿市ヲ十九 ○郡山ウ三十 和泉 ○堺ヲ三十三
摂津 ○伊丹ウ廿六 ○北濵ウ三十四 ○順慶町ヲ三十五 伊勢
○桒名ヲ三十 ○山田ウ三十 ○白子ヲ三十九 ○東海道ウ廿七 尾張
○鳴海ウ廿九 三河 ○吉田ウ十八 ○御油ヲ三十二 ○赤坂ヲ三十三
遠江 ○日坂ヲ廿七 ○舞坂ウ三十 ○見附ウ三十四 駿河
○岩渕ウ廿六 ○原駅ヲ廿七 ○鞠子ヲ三十 ○由比宿ウ三十四 嶌田ヲ三十五
甲斐 ○鶴瀬ウ十九 ○駒飼ヲ三十二 伊豆 ○三島ウ三十四
相模 ○塔之辻ウ十七 ○小田原ヲ十八 武蔵 ○花川戸ヲ廿七
○二本榎ウ廿七 ○金町ヲ十八 ○掃除宿ヲ廿八 ○高輪ヲ廿九 ○室町ヲ三十

○深川ウ三十 ○石町ヲ三十二 ○小石川ウ三十二 ○江戸ウ三十二 ○照降町ヲ三十三
○麻布ヲ三十三 ○浅草ウ三十三 ○青山ウ三十二 ○草加ヲ三十四 ○堺町ヲ三十四
○品川ウ三十五 膝折宿ヲ三十六 ○千住ヲ三十六 ○駿河町ヲ三十六 下総
巨𢦏ウ三十二 近江 ○土山ウ廿九 ○大津ヲ三十 ○草津ヲ三十
瀬多ヲ三十六 ○膳所ヲ三十六 美濃 ○岐阜ウ三十四 信濃
○洗馬宿ウ三十六 上野 ○倉ヶ野ウ三十 陸奥 白川駅ウ三十五
越前 ○木ノ下ウ三十二 越後 ○拍寄ウ廿八

六之巻

○寺之部 洪塚

○濱寺ヲ三十七 ○过堂ウ三十七 ○野寺ウ三十七 ○大寺ウ三十七
山寺ヲ三十八 ○藪寺ヲ三十八 ○町寺ウ三十八 古寺ウ三十八 小寺ウ三十八
○寺町ヲ三十九 ○寺林ヲ三十九 ○尼寺ヲ三十九 ○星寺ウ三十九 ○作寺ウ三十九
峰寺ウ三十九 ○神宮寺ヲ四十 ○寺山ヲ三十九

【山城】
○二尊院ヲ四十一 仁和寺ウ四十一 ○千菜寺ヲ四十二 法輪寺ヲ四十二
○本國寺ウ四十二 ○本願寺ウ四十二 ○平等院ヲ四十三 ○東寺ウ四十三 ○東福寺ウ四十三
智恩院ヲ四十四 ○龍安寺ウ四十四 ○黄檗山ヲ四十五 ○高臺寺ヲ四十五 ○大佛殿ヲ四十六
○宝寺ヲ四十六 ○大德寺ウ四十六 ○醍醐ウ四十六 ○双林寺ヲ四十七 ○南禅寺ウ四十七
雲林院ウ四十八 ○空也寺ウ四十九 ○鞍馬寺ヲ五十 ○黒谷ヲ五十 ○建仁寺ウ五十
小町寺ヲ五十二 ○戀塚ヲ五十二 ○興正寺ウ五十二 ○惠心寺ヲ五十三 ○天龍寺ウ五十三

○城王寺ウ五十四 ○清水寺ヲ五十五 ○金閣寺ヲ五十五 ○銀閣寺ヲ五十五 ○壬生寺ウ五十
○御影堂ウ五十六 ○真如堂ウ五十七 ○清閑寺ウ五十八 ○聖護院ウ五十八 ○黒漆寺ヲ五十九

【大和】
○班鳩寺ヲ四十 ○初瀬寺ウ四十 ○般若寺ウ四十 ○二月堂ウ四十一
○法隆寺ウ四十二 ○東大寺ヲ四十三 ○達磨寺ウ四十六 ○當麻寺ウ四十六 橘寺ヲ四十七
○添井寺ヲ四十七 ○壺坂寺ウ四十七 ○岡寺ウ四十九 ○元興寺ウ五十 ○七大寺ウ五十七
○世尊寺ヲ四十九

【河内】
○道明寺ヲ五十四 ○物川寺ウ五十二

【攝津】
○一心寺ヲ四十 ○摩耶寺ヲ五十一 ○天王寺ウ五十三 ○須磨寺ヲ六十

【伊勢】
○一身田ヲ四十 ○世義寺ヲ四十九 ○閻地藏ヲ四十九

【尾張】
○笠寺ヲ四十五

【三河】
○鳳来寺ヲ四十三

【遠江】
○毎閣寺ウ四十八 ○秋葉寺ヲ五十四
○油山藥師ヲ五十四

【駿河】
○久能寺ウ五十 ○清見寺ウ五十五

【甲斐】

○稲尾薬師ウ四十五 ○恵林寺ウ卅三 ○身延山オ卅七 【相模】 ○茶湯寺ウ四十四

○松ケ岡オ五十 ○建長寺ウ五十 藤沢寺オ卅二 ○極楽寺ウ卅二 【武蔵】

○萩寺オ四十 ○本門寺オ四十三 ○平林寺オ四十三 ○東海寺オ四十四 ○掘寺ウ四十五

○竹文巫寺オ四十七 ○増上寺ウ四十七 ○中野塔ウ四十七 ○羅漢寺ウ四十八 ○浦島寺オ四十九

○上野オ四十九 ○梅若塚オ四十九 ○寛永寺ウ五十 ○柳島オ卅一 ○護国寺ウ卅二

○駒形堂オ卅三 ○浅草寺オ卅四 ○総泉寺ウ卅四 ○盛寺ウ卅四 ○目黒竜泉寺オ卅六

○称名寺ウ卅七 ○木母寺オ卅八 ○泉岳寺ウ卅九 【安房】 ○日本寺ウ四十三

○那古寺オ四十八 清澄寺ウ卅五 【下総】 ○大巌寺オ四十七 ○真間寺ウ卅一

【常陸】 ○根本寺オ卅三 【近江】 石山寺ウ四十一 ○長命寺ウ四十四

○横川オ四十六 浮御堂ウ四十九 ○永源寺ウ卅三 ○義仲寺ウ卅五 三井寺オ卅七

○志賀寺ウ卅七 日枝山オ卅八 ○関寺ウ卅九 【美濃】 ○排寺ウ四十五

【信濃】 ○臨川寺ウ四十四 ○善光寺ウ卅九 【上野】 ○光泉寺ウ五十

【下野】 ○茂林寺ウ卅八 【陸奥】 ○黒塚オ卅一 ○瑞巌寺ウ五十

【出羽】 ○鮒満寺ウ四十四 【越中】 ○那谷寺オ四十八 【丹後】

○成相寺オ四十八 ○切戸文珠ウ卅八 【紀伊】 ○女人堂ウ四十二 那智寺オ四十八

○紀三井寺オ卅八 【筑前】 安楽寺ウ卅四

○神社之部

【山城】 ○濱社ウ五十 ○古宮ウ五十

○橋姫宮ウ卅一 ○地主権現オ卅一 加茂社ウ卅一 ○大秦宮ウ卅五

梅宮ウ六十五　野ノ宮オ六十六　八幡山ウ六十六　○愛宕山ウ六十七　○齋院ウ六十八
祇園社オ六十八　貴船神社オ六十九　下賀茂オ七十　○神泉苑オ七十一　[大和]
春日社オ六十三　布留社オ六十七　○藏王權現ウ六十八　三輪社ウ六十九　[和泉]
蟻通社ウ六十七　[攝津]　今宮ウ七十　○生田社オ七十一　○高津宮オ六十三
○呉服社オ六十六　住吉社オ六十一　[伊勢]　神路山オ六十三　朝熊宮オ六十八
[尾張]　○津島社ウ六十四　熱田社オ六十八　[遠江]　○秋葉山オ六十八
[甲斐]　○酒折宮ウ六十八　[伊豆]　三嶋社オ七十　[相模]
江ノ島オ六十七　[武藏]　○新田社ウ六十一　○富士八幡オ六十一　○王子權現ウ六十二
○神田社ウ六十三　○龜戸天神宮ウ六十三　○根津權現オ六十五　○牛御前社オ六十六　○三圍社オ七十
○水稲荷オ七十　[下總]　○香取宮ウ六十三　○曾我姫社ウ六十四　○手兒女社ウ六十七

阿諏訪社オ六十八　[常陸]　○息栖社オ六十一　鹿島社オ六十四　[近江]
竹生嶋オ六十一　○多賀社オ六十四　[美濃]　○惠那山オ六十　[信濃]
○戸隱山オ六十二　○御嶽山ウ七十　[上野]　○妙義山　[下野]
室八島オ六十五　[出羽]　○羽黒山ウ六十一　○月山ウ六十八　○湯殿山ウ六十九
[越中]　○立山ウ六十四　○倶利伽羅峠ウ六十六　[越後]　弥彦山ウ六十六
[安藝]　伊都岐嶋オ六十一　[紀伊]　玉津島ウ六十四　淡島社ウ六十八
檜隈宮オ六十一　[讚岐]　○象頭山オ六十九　[豊前]　○高良山オ六十四
○彦山オ六十一　[備中]　○吉備津宮ウ六十九　[筑前]　宗像社ウ六十五
○雜之部

【摂津】住江松 オ七十六 【伊勢】伊勢の蜑 オ七十二 濱荻 オ七十二

大淀松 オ七十四 ○不断櫻 オ七十四 ○鸚鵡石 オ七十五 【尾張】○藪香物 オ七十四

【駿河】○鶴芝 ウ七十三 ○ばく合き釜 オ七十五 【相模】○虎ヶ石 ウ七十二

○段葛 オ七十三 ○腰越 ウ七十四 【武蔵】○秩父松 ウ七十二 ○高田馬場 オ七十三

○梅屋鋪 ウ七十三 ○五本松 ウ七十四 都鳥 ウ七十五 【常陸】○要石 ウ七十二

【近江】辛崎松 ウ七十二 【信濃】布施屋 ウ七十四 【上野】

伊香保風 オ七十二 【下野】○(日光)御花畑 オ七十四 【陸奥】武隈松 オ七十三

○九面 オ七十五 ○姉歯松 オ七十五 ○文字摺石 ウ七十五 【播磨】○曾根松 ウ七十三

【筑前】不知火 ウ七十五

名所千題集巻之五

田喜庵護物輯

○國郡之部 都古屋鋪墨

○伊賀

いかのめは伊賀六ちまり経神の本 存義

ゆふかほや日の入伊賀の境哉 士朗

伊勢

神垣の内もしいまの杉 玉屑

宮くゝる乗出る子伊勢の春 椿堂

折ひろし日和ハ八咲の田植うる 梅年

構や山深くもれいよの宮 来鷹

鶉の声も霧すゝや伊勢の杉 千歳女

○伊豆　夕影や伊豆の修禅寺尼の泣　茶静

伊豆越し小春の汗や晴くゝ峠る　小圃

○山城 六波羅　六波羅や木の間の橋の色　一肖

六波羅はそれより後を見ず　右臺

○仝 六條　六條や夕くれの人通り　涼谷

更けし六條殿の灯かな　卓郎

○仝 錦小路　二条へ出れば錦小路　了女

鰻かく更けの錦の市さかり　素芯

○大和 南京　煙上る東の錦の小暗き　琴松

営の春うれしや南の京　寺記

○相模 和田屋鋪　草枕や京ゞよ泊る雨の京　若紀

としくや録きて蓑の和田屋家　山光

常日の妻雑あり和田屋家　真倡

○山城 上京　上京は走る鼠や馬の尾　挪居

上京へ帰る花や後の月　蒼虬

かし京や柚の色残る京　菓後

上京や雪ある家に灯の影　霞岫

○河内　春は旬の東の探る河内　双鳥

営や河内の山を坂根越　春路

河内女の路の子の出す笑の京　禾木

○相模 鎌倉

鎌くらの松魚も時を知りける　澧水

鶯や鎌くらさしかゝるうき　志け

う夜らしや谷七郷の念仏堂　星谷

鎌くらや芒に渡れ石の橋　松羅

鎌倉や大塔やくもる人の月　梅壽

○武蔵 葛飾

かつしかや名にあふしをりくさ　壽翁

葛飾や接菜蓮の小菜畑　秋挙

葛飾や一す枕菜人雑煮振　米諾

かれしくさ摘る子なきて菜原　吐山

○仝 多摩郡

いと桜や田毎につけて多摩郡　雄嶺

鮎唄ふ末ほり多摩の郡の菊　多可紀

○陸奥 高舘

こゝろ鉄の夢ハ消なし枯尾花　竹児

高舘へ来てみれバ只水の泡　謙輝

高まちや嵐に流る身の姿　旦基

○仝 伊達郡

東こそくろ髪まで伊達の室の叢　一峭

雲の川星ニ下はしめ伊達郡　春路

栗稗の露ふみて行伊達の郡かな　箕山

早稲の香秋風に流れて伊達郡　岐久亭

○丹波

いさよひハ丹波の人と夜の友　風芝

出代や丹波の母が菜箱かけ　紗雲

山城
○通圓茶屋

乙訓の花も丹波よりもたのもしき　守橋

通圓か利茶もけふ八月の祇　葉亭

通圓の中へはまた涼し時雨　誠兒

通圓て秋をまつ採もしぬまつ山風　護物

甲斐
鶴ノ郡

文料や鶴の郡へ入る　蕉雨

永日の四月を鶴の郡哉　廿行

きりぎりすの鶴の郡も田しまひ時　梅年

相模
○津久井縣

春風しよ鶴の郡の名も様　護物

き春の入まさりけり津久井縣　三喬

實るせの津久井に栗し安　江嗣　岐久守

大和
奈良

面かげは奈良見へる月夜哉　可盈

鶯も眠をさましぬ奈良の道　士明

着て居るや秋暮し奈良の町　亭橋

山風や奈良の町屋の梅の花　川栄

月は又明るさ奈良の町　和来

摂津
難波

浪花津のかすみ立つ時雨哉　几董

梅ちるや浪花の束の夜の雨　棠北

難波かな梅咲けり納豆汁　五付

出船や芦の浪花の水運び　米友

序浪や菖の浪花の事にて　来鷹

○羅城門（山城）
黄昏の時や藪の羅城門　蕪村
陰の巣は夕霧さはし羅城門　宜原

○九條（仝）
若竹や九條も昔揚屋町　月居
お隣は月夜の雪て降る九條かな　蒼虬
云ふ夜の九條ハさむし衣うつ　迦孫

○山城
山城へとりの早苗うつりけり　召波
山城や夏の雨しくも三日の月　圭光

○福原（摂津）
福原へ麦つく形のたちまちき　美寛
福原や秋をいろ東の草の花　泉呈
福原ハ橋の渡り雪寂しむ　大梅

良久矢
不古阿

○五條（山城）
五条まで来れハ春るる柳かな　召波
いさ渡しや四条五條の岸の月　若吾
いなつまや五条へまくる扇余　江戸　其翠

○鴻ノ臺（下総）
鴨は持れあらし鴻の臺　逸山
草刈て狹も折まし鴻の臺　曰人
脱衣干す頃や夜明の鴻の臺　栄角
野分や雨ほ明て鴻の臺　梅壽

○安房
清令禄や安房の旭ハ余所ほ似す　里丸
此月の雲の根もほてひとつの波　崔背
つれゝ雪の駆ほぼし安房の鼻　其山

○近江

湖の水秋照てさら江の中ミる上　鹿古

鯉鮒のゆるく人来るさとかやめ　十丈

五月雨のとら江をさ波くしひろき　久萬

日くらしや日和のつく扇を江　宇弘

鳰鳥のさ江すゞしく秋の花　茶静

○山城 三條

三条や霞にさ寺の人みるき　大江丸

三條の柳見て行く雪の墨　思父

三条で梅木買ふ人や初時雨　越兒

○信濃 更級郡

山陰で秋八更級の月見て来　完来

秋の今更級の[illegible]　大梅

更科の月もうらみやすまれ[illegible]　素龍

法しくて寺の洒屋も田植かな　[illegible]

更級や菜の花までも月の名　其桂

○山城 京

木枯や京に帰る思ひ[illegible]　蝶夢

涼しさや[illegible]京に入　沙鴻

京へ出る碇の[illegible]九月尽　茶静

[illegible]　露舟

[illegible]川風[illegible]京の町　来鷹

○紀伊

[illegible]紀伊の月見る宿屋かな　槿堂

[illegible]紀伊の[illegible]　玉光

○武藏 目白臺

はや気ふけ目白の富士の暮ぬうち　乙二

東風の吹る杉の下宮や目白臺　胡準

節月に藤影見し目白臺　一肖

山城 都

春の夜の夢を出けり都の灯　士朗

明月や都ハ井のもやの菊　巣兆

花咲て夜のすゝむる都かな　草而

菜萌や都の隣のさゝく里　紗雲

都らしき上もこて行夜の山　百慈

○参河

橘の三河に入て茶摘子　士朗

三河路や旅ハ志る山の秋　壬光

○陸奥

ちる陸やいつも鳥知らぬ秋の雨　菜貢

陸奥ハ田中も畑中も桜かな　弌児

みちのくやさゝぬ畑の冬つくり　蝸堂

陸奥や下いる月の行く見ゆる　菜都

○山城 下京

下京や絹しつ春の霞かな　可兆

下京に乞食の衣や桃橋　赤守

下京や月の夜念仏誰　利雪

六条八陸の月の汗　可景

郭公や下京ましく降出しに　菜静

○仝 四條

掛鳥の鼻つく四条かな　可董

静かなる四条の辻や[illegible]　搏堂

彼岸の花見て渡る四條かな　具碇

○下總

下総の国に山なし菜の花　保吉

比つくす下總ゆる柳かな　昌作

下總はしくさ山も知らなり　闌兆

下總へ出ハ旅行てその川　玄保之

近江 志賀郡

夕は浪や志賀の都ハ草一の雲　雲帯

遠織る志賀ハ時雨の都かな　烏翠

○仝 志賀郡

涼あつて楼田へ行く如志賀郡　世南

月ハ松に影ほ見て志賀の都哉　了湧女

○信濃

木枯の信濃に嶋き柚木の森　長斗

雪ふる戦信濃の泉や栗子の宿　斗入

一日まさくや信濃のさめの雲　素麋

陸奥 ○信夫郡

衆らの信夫郡に金木なり　杉長

旅立ちも来たるや信夫の野ら家　北岱

秋草橋の上も志賀の野夕　乎丞

山城 ○千本通

霧の柳や千本通見て来の雨　訴得

千本ハ灯より先や於はなの月　大梅

○駿河

菜の花や志にして吹る下駿河　存義

古寺も古月静やするの丘　杉長

須
登也不

武蔵
○駿河臺

菜の花の毛虫も波の駿河かな　守橋

剃毛むしく摘し駿河を一霧　玉光

見えずけりや汲も駿河臺　登彦

富士の雪八朔すぎての臺　且之

鶯や夕日のかゝる駿河臺　吐山

八朔や雲無情のかゝる臺　洲明

梅の花ますます人の旅や駿河臺　雄嶺

○里之部　村 并里

遠里

遠里もきのふの月五月雨　羨窓

遠里や憤えと行ほと苗　守橋

山里

山里や驚つまくおり霄月夜　搏堂

山里や月よりかゝる簾のうち　揖溪

山里や雪をかしらに雪日和　卓池

山里は彼岸に余る桜かな　利丸

山里や田植麦刈栗の花　浴水

麓里

斧の音麓の里の日待かな　元碓

薄葉焚く麓の里は秋の暮　奎議

古里

古里や荒神松に或くの露　烏頂

月をとり古里ハ水春の霄　摸立

ふる里へもどりて柳の日は菊　雨林

古里や山の月花しも紅庵　撫寿

古里に似たる人あり盆の月　護物

小里

花の枝小里まで家相の霧　保吉

水ぬるみて小里ハ流るゝ梅柳　東芽

初蝶や竹節移る小里芝　岳彦

独来りや芦を貢ぐまる小里　柳寄

○水鶏の也の小里やはくりえ　守橋

不古
庵喜

○孤村

雲雀なく下ハ孤村のけしきかな　雨塘

積や飛枕待ゆく孤村かな　恭里

雪の降孤村の犬の吠る也　几堂

里人

衣ほとる里人の声や夜の月　蕪村

里人のゆるめてはなし菜かな　保吉

○漁村

鳥啼て漁村の松のあきかな　蓼太

枯風の下まで暮る漁村哉　携堂

幟立て家に人なき漁村かな　椿堂

蘭奏人身残る漁村かな　可ゝ

夕川霄の眠さへ少しも漁村かな　玉光

山城 岩倉里
岩くらの狂女恋せよほとゝぎす　蕪村
岩倉にしるし人家の小草刈　付児
まつ梅や岩くらの辰の八寸庵　春路
杜の石の塔ハ古けれ夜のくさ　菓二

大和 石上
夕白の中に庵のたのもしん石上　護物

武藏 ○池上
一御の宿や池へ人家に五六丁　石明
池上へ行すがや百合香のかをり　梅夫
池のうの手習すゝめ縁もとの元　護物

常陸 ○潮来
よしきりやいとゝ名にある潮来船　馬卯
薄霞ゆくくの有明の東路かな　一宵

武藏 ○上六月村
見事さや瀬々飛けさ貝の屋根　上毛 乙人
紫陽花やいろいろの京ものゝ染家　蕉雨
さる千様に味噌くぬ瀬々の鯊　不風
と蔵就六月村の私語　存義
情あつし六月村の焼かち菊　斤乳

伊賀 ○花垣庄
蕗咲の花やさくんき七日　星布尼
花垣の人々かたり若葉　杏紀

近江 ○騰村
猪村にて夜さむとはさしの空　一蕙
庵の村や高田の門の橋　越児

山城 鳥羽里
坂たつや鳥羽の年寄おそくなる　木雄

鶯をんと来てさゝねの菜売かな　田都喜

初午やさゝねも市田も表ハ穐　市鳳

さゝねの磯片荷よりけて苗ゝら　輪之

淀る羽も芒乱底ゝの秋　茶静

陸奥
十苻里

垣に解く一夜明けぬ十苻の里　谷雄

菅薦の十苻ふも老よさるらし秋　輪之

武蔵
○秩父

麻畠やとりくる蚕ちう娘　菅庵

迯水のしてや秩父の霧時雨　旬光

山城
桂ノ里

桐の花ちるハゝつゝの里なき　曉臺

杜鵑栖の里て曲輪所也　宗拱

川霧やうらゝの里の渡しの船　杉枝

踊子やうらゝの里の雪の松　携山

篠竹に紙ふるや桂の前ゎ触　護物

白芥子に蝶くる畑やかもの宮　几董

仝
賀茂里

加茂の庭の菜摘の乾さん　一斛

おつりき加茂の郭公まゝ段　蒼帆

菜の花や植も来てゝのもの里　東芽

摂津
○神崎

帷子やさる躰る涼み来てゐし　子濤女

神崎の古石ゝしん雨の萩　亀白

神崎の町家ゝるや時雨かな　阿恵

武蔵 ○葛西

けふまでの葛西あたりもくもりけり　古 政二

鶯へ鶯へ葛西の大根引　一茶

朝も来や朝来もつる葛西領　訓山

正月をつく出す松の葛西かな　条静

美濃 ○笠縫里

笠着ても縫ふの里も秋なる冬かな　政道

家並ミ笠縫里の小春かな　茶静

大和 吉野里

春晴やけふも花見る古吉野　宗讃

これよりは峯の里なる松の芒かな　素芯

尾張 夜寒ノ里

涼しさや夜寒の里の夜の月　一肖

柳の花も夜寒の里や波の音　来鷹

山城 竹田里

桜ちるや竹田の里の小豆飯　守三

蕗買に嫁の出かけり深竹田　杉保

手を軽る苗に竹田の田苗哉　詠帰

仝 紀

下の川紀のすゝしさや　上朗

蓬生紀の東風稲妻かな　杉長

青嵐や紀の浦手をうけて　芽磨

若菜や紀の浦祓ける飴　房足 楽山

夏の夜けにけふは紀の山も暮れ　大梅

仝 玉水里

玉水の里に夕ぐれ時雨　汁入

鳴き初めの玉取の里はるけ　蓁亭

加有笠

河内 高安里

玉手[illegible]井手[illegible]の月　　菁䖝

玉水のよしてる清水や夜ざくら　　淡水

二ろ安の里ハ月[illegible]さくら[illegible]　　守雄

伊勢 ○ミノ氣里

二ろ安や萩[illegible]も霧の縁　　務吉

上[illegible]家の入口椽さきの紫かな　　句光

[illegible]古る[illegible]家の東[illegible]縁もなし　　默斎

武蔵 田面里

稲田やぬるゝ田面の[illegible]の梅　　句光

三[illegible]や[illegible]も[illegible]簾　　古政二

相模 ○曽我中村

旅人や[illegible]家の[illegible]五月雨　　太祇

人の[illegible]家中村や[illegible]　　白雄

[illegible]入て[illegible]かんこ鳥　　[illegible]

武蔵 ○染井村

[illegible]村のこゑて柳の[illegible]　　昌作

[illegible]や染井の[illegible]　　多代女

巣鴨より染井を[illegible]の雨　　守橋

[illegible]染井の柳[illegible]　　沙明

摂津 津守里

[illegible]はるの里や田螺[illegible]へ　　蕪村

巣やよる[illegible]の切[illegible]　　五橋

[illegible]苗とるやはるの袖も[illegible]　　[illegible]女

信濃 ○妻科里

妻[illegible]の星[illegible]　　叢

[illegible]や妻[illegible]の星の秋　　単丈

越後 妻有郷

妻恋しの旅も夕顔咲くら　護物

水桶抱て人も菊む妻有寺　冬廣

出代はこれ妻有の月夜かな　幸紀

妻あらはそのあたり蒲萄も有明けや　護物

尾張 寝覚里

ぬるの月に寝覚の里を通りけり　士朗

牛曳て稲さらめの里の門紫かな　亀白

武蔵 根岸里

花伺ふ根岸兎ろりも走出さし紀　冬廣

春風や根岸へてのる道さし　了靖女

若てこの根岸へまとれまち日かな　とこ女

鶯やよ出そと暗戸の根岸村　荷乙

摂津 長柄里

夕月は長柄の里やくぬ櫻　徐覚

月は中時も橋ひとりの跡を度　乙彦

水のある昔長柄かたちなし　杉長

山城 宇治里

灯しの手や宇治は枯ゆゑ渡て　羅城

宇治は舟しばるゝ所ろ一月かな　三津人

初雪や宇治の小茶は釜　冬蕉

是合や宇治の小家も秋に富　雀角

音る日や庫や宇治の茶粉　永枝

仝 梅津里

茶の色を嗅て梅津の月遠し　冬廣

月しろや梅津くつもの秋の色　秋舟

仝 井出里 風芝ゝる中や梅はの夕ながし 岐久守

菜の芽や和らけの井出の里 巣兆

雪ぐもや田はた川原のつゞきの里 護物

摂津 ○野田 鴨下りて野田の苗代あれにけり 卓池

合歓咲や野田の畑と黄みたる 南陵

美濃 野上里 あつさしや泊らぬて野上まで 士朗

卯の花や不破も野上の闇しらず 杏池

大晦日みなこの里の身ぬくさき 五陵

山城 ○御室里 早梅や御室の里の売屋敷 蕪村

鶺鴒すゝの御所の御室の露むけり 杏晃

鶯なくや御室出ぬるかる小里 護物

武蔵 ○大袋村 むくさき衣を蔵も納くの大ふくろ哉 作乳

雪く雉鳴る里は小ふくろ大ふくろ 素鶴

越後 ○鬼伏里 霜汐み踏んで鬼の伏すふ在所見 呑芝

鬼なりや臥てもこゝす波のう川 護物

山城 久瀬里 久世の鐘はなれて山路ふく在の家 杜参

久世の夕月や去さてあり雨 秋守

大和 国栖里 東の手れ出栖の翁のすてゝある鐙 来汐

花さく鳴る糸も旅の床よ栖の里 似暁

近江 黒津里 夕立や黒津の情ゆきかへし 士朗

山城
矢脊里

あくはきかる孫生の並はへ　一肖
おもしろき霞の立はよ巣へあしや　杉長
鶯啼や里はんてる味るの音　春路
一群ハ里はへて散はるゝ　亀央
鶯や里々より矢脊の里　存義
菜摘堂矢脊月の里人並ひ居し　蒼虬
山の背を霞にはれてや矢脊の花　草雅
鶯啼や山の草に矢脊の秋　甚挂
山清や黄な水の中を一つ流　キ堂
雉子鳴や八重山清一本より　林曹

仝
与寄里

仝
山科里

稲かるや淀山崎ハ虹の中　春路
山科や六條殿の蒐てゝけ　椿堂
山吉野や一すゝ無了楳のゝ花　菜哂
山科やわ村中の下北芹の秋　米佛
山しおや禁秘の蛙の音　川寂
山科へてゝふ豆腐や夕附日　菓角

三河
万来村

新霜露葉村の河ゝるゝ　大魯
旅人啼や万才村のむろ麦　萬里

近江
真野里

穂よりてまきし此手の里　素芯
里うふ鶴も霞立や走小也の里　菜角

○仝 蹴上

山城 深草里

大和 布留里

逢坂の蹴上の泥か花もちらし　禾木

弱りきや蹴上ニ捨る紙衣　芝万里

涼しさハ露の里なれ連清水　素芯

深草を露の身にする憾かな　素童

涼草の里ハ昇に秋の中く　草坰

ふの字や屏風に辰しつ　田叔喜

涼しさや多羅田も見ゆる夜の雨　両賀

霞白や井さへものふ布留の里　乙二

布留の里や月夜に来るも鉢　素迪

帷子も布留の紙子乾きけり　搥三

山城 木幡里

大和 篭口

○仝 後鬼退

山伏も鳴子引く布留の里　士朴

添解や木幡の里のかくれ清　大江丸

青田入や木幡ハところ積まゑ　越児

東路や木の上の里ハ大あらん　可布

稲垣ハ出来ても秋し多羅木橋　梅壽

出汐てや木幡の月のよき時　粱静

卧中ふて雨もころの初瀬清水　蕪村

篭口の蛙に法も秋も櫻　几董

後鬼ものを低うて花を待　可也

前鬼後鬼の里人老や往　恵兮

怪鬼村の噂も高し峰の月　護物

武藏
○小梅村

下駄ふむや卯来毎に小うめ村　菓那

明月や水門ゐくさし小梅迄　谷雄

正月の雲ふる／＼し小梅むら　黙菓

露ほ古き草や小梅の一毛埴　島立

水く絹傍う小梅の里や落る夜　拱寄

仝
○戀ヶ窪

草枯や月のゆくゑを恋の窪　ア儀女

山向とも寝しも恋く恋の窪　衣月

露ほ子まだし蛍のとても恋の窪　護物

上野
○小雨邑

卯花に明し戸も暗し小雨邑　雲哉

常あかぬ姥らくし綻や小田村　番氏

陸奥
木下

木のもとは露の香さそふ兎哉　みち哉

木の下や笠に津くる露の色　谷雄

ゆりくもる霧に濡ぬ人も　詠帰

攝津
○江口里

世を厭ふ猿や江口の郭公　仕朗

語らふと袖江口の里の月時雨　守兄

きそう法も妓江口の雪といふ　護物

大和
飛鳥里

橋も飛鳥の里もさ寒く哉　鳥酔

船白や春よ八飛鳥の里の市　亭二

夕暮の飛鳥にきし轉の音　草雅

仝 秋篠里
秋しのや霜のおくの水の月　大鏡
こほさしつ月秋篠の山かな　元風

近江 ○浅妻
浅つまハ志るゝ名をやちとりかな　樗良
阿さ妻や庵も涼しき草枕　玉光

山城 嵯峨
嵯峨縁やさ涼しき新の法の恵　蘭更
嵯峨山家の月ちに燈の立ひかな　岱年
志つかさの背く嵯峨山家の萩桂　湖光
来て見よやぬるゝや嵯峨山家の遠き居　默巣
わか帰や嵯峨山家ハ美人の衣を縫　一具

仝 ○西院邑
西院の梅に月毎に老しく哉　蒼虬
西院の燈のしつまりかへるや夜床立　和水

大和 佐野
芒立や佐野の渡りのおさし物　大江丸
北ふかし佐野の小家かな　竹加

山城 ○北嵯峨
小嵯峨や畑の中に秋霞の寺　盧白
北さかや瀬くしもてる青霧　松雄

大和 ○木辻
青さしや床に取らぬ木辻かな　玉光
こゝ町番木辻の家にこえてきし　茶静
桜衣木辻の月を枕かな　越児

武蔵新吉原 ○京町
京町の老さへほこり傘の雪　呑庭
京町や傘に流るゝ雪の路　守橋

信濃
木曾

京町や餅につゝむ東の雪　沙明
木曽に入て漸白し新茶時　一具
搗もちや木曽の二月は雪ながら　其行
木曽谷やそらすむ虫の夜寒さて　五蓮
岐岨の夜月ハ額に明けり　茶静
峰ハまだ消ぬこしの雪や木曽の秋　護物

○相模
雪ノ下

地角力ハ貝原の宮し雪の下　武陵
沫ちらさずきる秋ハ紅葉の雪の下　奎儀

○武蔵
目黒

よぶこ鳥目黒の梅咲にけし　詠帰
秋くれて目黒の町や白の昔　亦玄

喜由
於菟

大和
三輪里

草にねさま秋ぬれ嶺目黒かな　梅書
句料や雪に出初る三輪の茶屋　暁臺
志賀の月三輪の森見む清けら　大江丸
宮さむく鈴無しりの三輪の市　素共
水鳥の夜はしらぬや三輪の里　[illegible]
杉ほに三輪の酒屋の洗濯物　菜嶋

○武蔵
箕輪

うくひすに八笑輪坂も時雨哉　一具

○上野
溝口木

梅のなしやその里ハ町つゞき　大梅
うてる木や志らべて五月雨　みを
みなぎは時雨てかし時雨　旬光

○山城 島原

島原へ出る名もとりや猫月　太祇

時鳥なきたりあけしよし原も秋　蕪義

嶋原を向て行き来る紙のかな　元風

残りたる秋恋し下河原　爾表

○仝 下河原

鶉の鳴すむなれや下かはら　舊三

いちはやき灯や一筋に下河原　菜所

初霜やまださきつや下河原　𠮷雪

まつ宵やすゝみ歩行る下河原　護物

○仝 撞木町

割筑の枕に泊るや撞木町　召波

清水や撞木の花や撞木町　嵩兆

○武蔵 新吉原

鶯やまた燈の消ぬ撞木町　護物

おかし坂よし原うけて年まかせ　巴人

京ひとは吉原雀を持ちかへり　嵩兆

吉原は桜も見えて人の夜　芳中

よし原は枯枝ばかり秋の風　旧人

涼風や吉原出て見る月の客　應兒

○近江 志賀里

おほろ月志賀の猫の夜明かな　木偶

瀬をまちてつゝ志賀の桜かな　米喜

門前の柳にふれつ志賀の里　鈴風

初雁や二の声は志賀の里　沙鴎

仝 滋樂里

志賀ハさてもの古ハとなきゑへし　荷乙

志からきや茶摘なんとうたふ小唄　丞彦

志からきや時鳥まてと夜の篠　玉光

仝 ○紫屋町

能登や菊と傀儡の紫屋町　之風

夕顔の花咲かさうす紫屋町　梅壽

信濃 ○清水里

又も来ん清水の里の菫くさ　士朗

ま瞬や清水の里ハ家遠き　雅堂

陸奥 信夫里

今めけや志のふ継里の夕日和　清人

月きよし信夫の里やおもくも錦　春罍

伊勢 ○日永里

あさはしも比や日永のいせ参志　丞彦

扇けりや里ハ日永の霧ゑさし順　里流女

駿河 ○一言村

初午や日永の里にておはし賣　梅壽

戌鶴の一言もなしや鮭おくん　丞彦

留守寛ちいさき村に明るさ　宇橋

武藏 ○日暮里

日くらしハ重ておもてや盆七日　丞彦

人あるやまつ日くらしの花の中　一肩

上野 ○鹿沢里

月早しやころ深の山はらく志え　蔦三

ころ深や霧あまりの時雨　一貞

山城 芹生里

あの梅しや芹生の里の芹の中　蕪村

芹生みや背負てなりはしこ錦　柔年

大和
○前鬼村

武藏
閑宗里

山城
○墨染

芹せりて芹田村くらし春の雨　巣兆

前鬼にも手はなそれりや薔薇散　太祇

ちるものゝ美お兜の宿の揚雲雀　椿市

菜の花に閑さつもる寒さ哉　丕秀

花ひるに閑宗の芦の花かな　巣兆

きりはいつも寒かれの梢より枯の宿　普記

暮れかけて時雨をきく尾寒さかな　赤玄

そのうち時雨ゆくしその寒哉　梅壽

墨染の柳芽ぶく風笠しき　宗讃

墨染のめやもとの中なる朝の月　観瀾

攝津
須磨里

武藏
○巣鴨村

杜鵑ちる墨染ゝ行ちるまちかれ　訓山

こぼれ日やわすれもつかぬ江戸の霞　蒼虬

柳引て須磨の江戸の掛き哉　素芯

うちる風日にて子須磨の里　騎龍

ちるきゞ菓やくさの花須磨の秋　日人

青柳のまさるゝし江戸の里　菓静

降雨の巣鴨ハ昨に春眠し　みち夜

巣鴨さしや巣鴨も雪の一生涯　青兄

杉の若葉くらし巣鴨の夕時雨　元碑

柿くるゝも菓の白和や巣鴨店　喜挺

○秋田邑

す每つても梅よまゝらん秋田邑　巣兆

養父入の帰るころや秋田邑　馬年

汐風の秋田ハさむし梅もみず　里丸

能くさく海苔に流るゝ秋田かな　菓角

入梅もはるゝらの雨の秋田村　詮水

○原町

○驛之部　町　市　辻

原町や出羽まかする雪の路　護物

雛子鳴や日和〆雨ゆく京の町　小羅女

梅さくや片原まくく原の町　里長

○濵町

米搗や本米ちるゝる濵の町　奇爽

梅かをるやうしろ吉原濵の町　玉光

濵町へ咲かしてくる舟かな　雪且

○片町

片町に涼しさ果るや東の風　蕪村

片町の燈火細し秋の暮　一藤

椿さしく片町くるし蕣の堤　季珉

○四ツ辻
○外町
○野町

片町のみこし頭やかざしぐさ　應尼
四ツ辻やどちへもゆかぬ山車二ツ　素檗
四ツ辻へ出てとゞまるほたるかな　禾木
よつ川辻や帽子の行かはしまて　夏桂
外町は春のくるさよ郷中の声　荷乙
菜振越て桐の花さく外町か　来鷹
小嶋峰門も野町の子日哉　乙二
嫁入の灯かすみて来る野町かな　黙巣
四五尺の梅にほふ野町かな　可夫
春雨と行かぬ野町の藪足駄　笑壺

○追分
○山町
○山市

ふたほともゐぬ外町の若供養　徳助
追分の櫻はぬらし夜の雪　和光
追分ハ山をうしろの時雨かな　来鷹
追分の灯ハともりけり蛙の声　巣鶯
追分や来る人中の人とける　竹児
山町や廓の出ほとの花　星谷
木からしや夕日もうけし山の町　芝　栄李
うき雲て野分のけや山の町　万里
山市や牛の初荷の梅の花　古　波二
山市の影を押分て桜うり哉　入船

○藪町
影法や鮎うりありく藪の町　義超
ほとゝぎすなくもどり路や藪の町　恵竹
志ら露やおもてのうしろ藪の町　ちる紀
○麓町
猿引や花見出立の麓町　卓池
五月雨や麓の町の大のぼり　一肖
七夕や麓の町の灯しき　一蕙
摂津
○伊丹
桃さくや伊丹の杜氏出て行　一具
菊を見てよるや伊丹の盃の月　應尼
駿河
○岩淵
岩淵や又柴ふむも碓氷のうち　袁丁
岩淵や芦ひろがる波の音　玉光
岩淵や稲妻窓に影の中　斉梲
大和
初瀬
若水も初瀬ハ花の流れかな　月居
紅葉ちる鐘の音さよ初瀬の町　吐山
駿河
○原駅
さゝる月や原すゝきの蛍水　子龍
東海道
一ト日は未だ摘みや原の宿　巣二
武蔵
○花川戸
ぬるみゆく氷新しき花川戸　梅塢
大原の月ながらへて花川戸　應尼
遠江
○日坂
昇る日の日坂越る日永かな　五帆
東海道
日坂やかゝる落葉のうへに露　和来

日坂や煙くもりし夕かゞの葉　乇

日坂の餅につゝみし木芽哉　春路

武蔵
○二本榎

明待ハ二本榎の月夜かし　西六

紅のゐも坂の鳴二本榎ヶ家　小園

○東海道

青柳の東海道ハ百里かな　士朗

もちなよや東海道は山つゞき　斗莚

相模
○塔ノ辻

菜の色や日脚もかぬ塔の辻　家柳

夜草を刈人ハ行し塔の辻　三生

雲雀ありそらなり塔の辻　雛周

轉る白いもふさり行し塔の辻　護物

相模
○小田原駅
東海道

小田原をとるその雨や蔓いちご　昔丸

新声や小田原あゝる小挑灯　呈丸

小田原子医者の名さよ不二詠　一蕙

山城
○帷子辻

かゝるうちの辻て通ひぬ飛芽色　みを辰

帷子の辻を先の女かゞる哉　讃物

武蔵葛西
○金町

金町へ寄のさしえなき枯野かな　斗莚

金町やあしのを流る妻の秋　秋朝

仝
○掃部宿

涼しさや足をすゝむや掃部宿　草均

草市や解すゞしかも人宿　一種

鳴鵆かの中に用ある掃部宿　黙翁

○越後 柏崎

芦垣の外ハいつしもの柏崎　大梅

妻に附て花ともしらす松桜哉　譲物

○山城 淀

ぬれ色を見分けるや淀の町　挂五

青柳や雨にぬれける淀の橋　擲堂

顔振ハ涼しかりけん淀の月　素芯

と見向て涼しさ遊ふ淀の家　守三

雁行も上り来所て淀の角櫓　季珉

○三河 吉田駅　東海道

ゆく春の噂かゝる吉田かな　了嫣女

吉田から能のりよきや猿　宇橋

○大和 辰ノ市

秋風や蕗えら聴く辰の市　棠兆

辰の市菜の花の中の茶など也　九十

朝白のうゆる鉢や辰の市　玉光

○仝 高取

高取れを先こる峯の山桜　土朗

高されもかえぬ顔よ鹿さかな　惠分

○武蔵 高輪

高輪や牛の角にもまつ霞　駿鳥

高輪に猿の眉宿す削りかけ　杜英

高輪や秋月からの夕霞　砂粒

○大和 椿市

椿市の油も今して恵比寿講　羅含

牛追の椿市見ぬ夕時雨　棠二

○甲斐 鶴瀬

山吹や鶴瀬の宿の初大根　譲物

近江 ○土山宿 東海道

尾張 ○鳴海宿 東海道

山城 ○室町

汁や旅人もてかる蒲ふ　杉露

見えかぬや土山立の人ゟ来　士朗

土山や日うけて暑る豆の花　佛朔

五月雨や土山こゆるうつふて　芳汀

土山や茶の青くきし片時雨　菜角

鳴海ふて時雨そめけり字鐡の緒　士朗

あるせや杉まえる降る雨の沓　竹世

旅人の鳴海もとゐ帰る雁　宇橋

世は風の室町のしら初時鳥　几董

室町や月かゝりし〻降時雨　守橋

武蔵 ○室町

近江 ○大津駅 東海道

伊勢 ○桑名駅 東海道

丑満や室町筋をとふ笛　宗讃

むろ町や二階よりゆる菜の花　素芯

室町の等ねえしる霜夜哉　武江 淡美

五月雨や大津の町の片下り　士朗

牛かるの大津ちまふや葉の雪　椿堂

明きしておほ侭の大津立子より　耳行

新米の大津ハ人やし鳴子哉　卓郎

春風の二階に貼る大津絵　護物

浪白いのさとや桑名の旅籠附　乎喬

浜の月桑名へ来ぬハ扇やらふ　守橋

○近江 草津駅 東海道

出くるや照て菜名のいろは毛　一蕙

雪消えて草津日和やうめの花　宗讃

一席来て霞も草津のやとりかな　燕山

飼猿の日永まるゆる草津哉　箕山

○上野 倉ヶ野

春雨のふるゝの色て森の色　士朗

倉ヶ野や牛うち通る秋の暮　乙也

○伊勢 山田

ころうせよ餅くる酒價や百合の花　岐谷守

おもき色く伊勢の山田の早乙女哉　君表

道者白や山田の所をぞ立据て　似暁

○遠江 舞坂駅 東海道

舞坂の並松こえてあさきの秋　茶静

○駿河 鞠子宿 東海道

まり坂や来ぬ通りまし秋の月　岐谷守

色る白いや鞠子の汁もなを時分　君表

やつ比の旅鞠子泊の零余子めし　素人

葉桜のまつりはさびし木賃宿　亀白

茶のめて何ゝ見ぬ鞠子の春の月　阿恵

黄昏て出追もくれぬ鞠子宿　禾木

○山城 伏見

ものいはで山吹ちらんふし人形　壽翁

ゆかりを坂くさくまるや伏見形　ノ旦

古手屋をたゝん伏見の片附置　西月

人知らぬ杜丹抱へし伏見人形　卓池

久地
求不

三河
○御油駅 東海道

三日月や遠江へと行付小萩咲る　松江

木枯の夢ハもいつ中ニ遠江の宿　竹尭

散るもるや此江のと海へ月ら勢れ来　杜蓼

田植して遠江に出来る月夜かな　菜静

鶯の遠江から来そと梅はし　素鶴

甲斐
○駒飼

夕萱やはちる駒の足ハ跡に随ひ　冷水

駒の乙ハ旅上り山清水　岐久守

武蔵
○石町

寛侍や石町の鐘の声ときく　白雄

元日や石町の鐘ハ我の声　宜岁

石町の鐘の音聞る暁月の夜　亦云

武蔵
○深川

伏ゐまて流て来り船の志ら帆かな　菜静

深川の墓参らし五月雨　保吉

深川ハ出ろをてみゆる夕柳　長翠

常ヶ川の汐先見留や千鵆　公羨

明安き東を深川の出る汐　季于琚

深川の新堀下るや行々子　外亭

山城
○御幸町

暁や菊の香ちる御幸町　白雄

ちゝ出て紀伊幸町より始めかな　奥 鉄山

大和
○郡山

冬の田にかゝる日さし矢を郡山　久保義

ほとゝきす鳴や夜明し郡山　巣二

吟仝
○小石川

不二を見ぬ夕ぐれ涼し小石川　宗讃

蝶鳴やいつ日の暮る小石川　丞貴

川霧やこゝも見えぬ小石川　詠帰

下総
今古河
巨我

影ふけて水鶏が背みや巨我泊　日人

梅よつみてまたゆけて巨我の石橋　一茸

蓮昔や古河ハ昔の名あるも似る　夏桂

越前
○木本

稲妻や木のもとも稲毘の原　丞貴

木のもとや河人ふくるゝ初時雨　丑光

武蔵
○江戸

紫江戸を麻布山もそこ　白雄

隅田川やいつこそ江戸の九月頃　完来

古江　天阿

菜の露に江戸の家郷も旅そのし　蔦三

さむさや江戸で来つゝする梅ノ鶯　普記

五月雨やとの千多き江戸の町　双湖

仝
○照降町

砂積て照降町やむらの蝶　沙明

梅提て照降町をゆき通ひ　護物

三河
○赤坂駅
東海道

いさよひやさや赤坂ハ月夜なる　呉山

赤坂の花の風こそ名の月　其旋

武蔵
○麻布

かしこまる二麻布ハ江戸の山ぞ　蔦三

水鶏なく麻布の宿し月夜かな　麦二

行き風の二麻布ハ雲の水の家　護物

○仝 浅草

名に根てる庵市は蕣けふぞ　川栽
浅草や梅すゞしくて来ぬるかな　成美
阿さ草や人の中行枯の蝶　侑美
まち遠し浅草の市やはしめ先　鶯笠
鶏の外や浅草の雪をはしめる　東雨
浅草の雨に寒さや初袷　素角

○仝 青山

牡丹らんの青山くらや茂み藤　應三花
青山や梅ちまわきし小商人　恵竹
青山の雲に酔ひ久り悦しき　岐谷等

○和泉 堺

ゆく春や堺のうしのさくら網　大江丸

麦蒔や堺の庵のもとの庭　蕉雨

○武蔵 堺町

はすおしさりしの庵や藪公　護物
雪ありてやくる年は堺さく町　守橋
行としや味噌さへ青し堺町　沙朋

○仝 草加宿

荻も芽に出るや草加のわかめ汁　可景
夏まつ縄や草加の宿の時鳥　恵竹

○山城 木屋町

木屋町の暮るゝまちる柳の花　みな彦
木屋町へ持て這入し蚊帳かな　撫三
木屋町の灯はるゝ霞かな　多代女
木屋町の名は雪なれどちるまゝに　老樗

攝津 ○北濱

小舟漕や水つゝく人の初時雨　大江丸

北濱や菖蒲ひとむしりかけ芦　禾木

美濃 ○岐阜

ちり々や軽き八重ゆる岐阜の町　菜静

鮎庵の風も薫るや岐阜の町　其碇

駿河 ○由比駅 東海道

波の音まで春雨淋し由比と浪で　讓物

鯛下る日の出日和や由比の富士　三生

遠江 ○見附駅 東海道

末の月も見附の長き横ぐ　守橋

三日月や見附の宿の小簾して　一揆

提灯の見附泊りや雲の月　峡守

伊豆 ○三島駅 東海道

山吹や三島八わたるける　養庵

喜由 義之

朝白りくさめて行や江嶋立　年緒

はうはまて嫁きる時の麦畑　有臺

本枯や江嶋て参詣の泊り哉　草郎

攝津 ○順慶町

そのひは咲そろ三筋や桃の花　讓物

順慶町の夜店の桜咲まじり　百堂

白菜や順慶町の春の雨　素鶴

伊勢 ○白子

霞まてや白子の渡て白子とし　雲庵

おちらるや白子の宿の根汁　草鳥

駿河 ○島田駅 東海道

薄の花ちえて白子の... 　禾木

早乙女に嶋田泊や... 　柞枝

武蔵
○品川驛
東海道

陸奥
○白川驛

落し水嶋田の宿のうしろかな　箕山

品川はまさし霞むや吉野の月　杜蓼

品川の東は明安し水雞かく　太擣

品川の千足翁やゝの長さ　玄語姿

品川の沖よ見え行る千鳥かな　如松

志ら川は沖の[illegible]の霞まちけり　史挺

白川や石[illegible]て麻の花　存義

志ら川の木陰を出て菖蒲の花　千影

白川や[illegible]人の春　涼講

志ら川は[illegible]枕の風　梅歌

武蔵
○條折宿

[illegible]留[illegible]の[illegible]條折の　呑虎

條折や荏胡麻の中[illegible]　一川月

初午や千[illegible]　巳人

[illegible]や[illegible]　五湖

[illegible]白[illegible]　蒼虬

仝
○千住

[illegible]や[illegible]の東[illegible]雪[illegible]　多代女

[illegible]や手鐘[illegible]　表丁

[illegible]十日[illegible]一層　一啄

近江
○瀬多

五月雨の[illegible]人[illegible]の[illegible]　旻桂

仝
○膳所

夕[illegible]や[illegible]　士朗

草木の芭やよくしげりける緑所の塚　東巌

時鳥も羽をひらく角の猿示の町　田鶴書

水鏡か日永き猿楽の出拺か菊　益賀

青嵐や猿楽のもしろい月あかり　川蘇

信濃
○洗馬宿

虎落間まで風く樒や洗る泊　者吾

毛拾やいつも新し洗馬の宿　小圃

武蔵
○駿河町

枯川や先明のするが町　保吉

雁帰るし後は晴て駿河町　奎議

名所千題発句集巻之六

○寺之部　集塚

○濱寺

袖の霜とそ赤くみしのこや濱の寺　丞彦

寺の波寺の白き菜の花咲にけり　黙巣

濱寺や猿ふてねる松の露　羅合

寺行ある彼岸来りや秋の雨　芝　梅夫

○坊

仮染めに百合いけたる谷の坊　蕪村

鶉の来るに夜は詠ける谷の坊　丞彦

紅梅や人なからぬ坊の春　一具

津西旅也

○辻堂

辻堂も旅くさゝなる汐干かな　丞彦
出来秋や辻堂にまて大の市　爐扇
辻堂に蝉なく雨の暁かな　沙明

野寺

常火や野寺に入ても一さかり　保吉
山の椿野寺の椿より赤し　佛朔
鍬白うや野寺の屋根ハ鴉曇　可々
一むしろ柿の皮干す野寺かな　双湖
相のあさゝや野寺の秋堂供養　鷺雪

大寺

大寺や素湯のあへくつ杖のくせ　白雄
大寺や時雨桜も花の中　寄劍

山寺

大寺や塔のうへへ花出てふ　如意
山寺や門を出るに行ちかひ　擇良
山寺や取ちらしたる稲の秋　菱垣
山寺や改御なからの庭掃除　舟静
夕良やちる桜の音存し山の寺　入紫
山寺の鐘にかまさる牡丹かな　阜郎

○藪寺

藪寺や水鶏の声に八重ほる　千崖
藪てらや足跡つけて雪を待　桃彦
旅の寺にかゝるもさへへ藪の寺　守光
藪寺のこしらへ出るの你まかな　箕山

○町寺

萩寺の角力果けりちまちの露　阜而

町寺の芥つくねたる宵の入　阜二

町中の寺はいやしき仏くらき哉　禾楽

花の日も過ても寂し町の寺　護物

古寺

古寺の藤あさましき落葉哉　蕪村

恋猫や家古寺に啼て来る　暁臺

雨寺で寺に楼閣の波むく葉の露　保吉

古寺や菜の雪ふる落葉の夜　素郷

古寺や髑髏も死ぬに何さめ風　夏桂

小寺

灌佛に雀の並ふ小寺哉　蒼虬

末不古
天阿

○寺町

木瓜辛夷萩の小寺も能掃除　双湖

蛙ゆく川遊しぬる小寺哉　守光

葉柳の寺町過る雨夜哉　白雄

寺町や雨の日の蝶呼けさす　保吉

寺町や蔵拾ひて藪入す　みる茂

○寺山

きさらぎや庵吹はる山越る橋の下　今

寺山や花に落葉も小松も月の萩　大梅

○寺林

鵆の背に雪のもとるや寺林　川嵐

木芽ふくや斧さへ志らぬ寺林　崔子

○尼寺

尼寺やよき蚊帳たるゝ宵月夜　蕪村

○里寺

尼てらや桔梗はらふ秋の宿　喜挺

里寺や菜の花つく枳殻垣　禾葉

里寺や月のさしよふ竹の中　卓郎

里寺や枕を拂くすゝ人　夏桂

○作寺

作寺の飯たやしに霰む　靜觀

作寺や人子をとゝきぬ梅の花　田郡喜

作寺や梅いくらの春まだし　喜代女

○峰ゝ寺

名月や人はゝ来ぬ峰の寺　名滄

峰寺や汐ゝる影ふゝ秋の夕　似暁

月時雨寺へ行きかゝる峰の鐘　夏桂

伊　丘美之

○神宮寺

神宮寺の霞わたりや梅の花　敬扇

捿ちる鹿のふるし神宮寺　小圓

神宮寺の松にかゝりし鳴子哉　禾木

大和　○斑鳩寺

元日やいかるゝ寺の暦買　菜靜

鍛冶場や斑鳩寺の名あるこ　玉完

摂津　○一心寺

ふるさとやうちの中は一心寺　月居

明月やさし出されて一ん寺　一風

伊勢　○一身田

蜻蛉の秋さる寺や一心寺　巴水

見る草葉も露涼し一身田　佛朝

近江
石山寺

大和
初瀬寺

仝
般若寺

極月や枯木の中に一身田　一具

山吹の東のおもかげや一身田　宇摘

稲つむや石山寺の石の中　柳居

三日月ハ石山寺を離れけり　木人

初瀬寺鐘撞捨られし杜宇　淋山

星合や初瀬にこもる東の中　守三

鶯や来るも〃日に初瀬寺　一撞

紅葉見や雨雲さハく初瀬寺　桟車

燈籠や蛍火を見つせる寺　川蹄

般若寺に蒔て置る青芒　枚長

般若寺の菜に咲けるなつかしき　於露

鹿の声今千年矢棄りき　般若寺　樗山

武蔵
萩寺

山城
二尊院

萩寺ハ萩のちらぬ月夜かな　一蕙

萩寺や大かた盗人でかな　元堂

萩寺にしほらぬ萩の古寺　白鶴

竺の梶籬の由き入二尊院　宗讃

鈴の音のはしに出て二尊院　蒼虬

春寒く堂〃寂し二尊院　小園

卯の花や雨の二道に二尊院　禾木

枯尾花まだぬ枯も二尊院　譲物

仝
仁和寺

大和
○二月堂

安房
○仁本寺

紀伊
○女人堂

仁和寺とをまでくれ摘しつる若葉かな　素芯
仁和寺に揃へ入や嵯峨の雉　月底
仁和寺ハ京の田舎の花盛り　守人
仁和寺や此歌の額を甫とく寺　李峰
仁和寺ハ承厳ゆるさぬ牡丹かな　掛寄
春柳や不引絹ての二月堂　長翠
明月の露ゆきるし二月堂　嵐二
は本寺や記く言葉なりの紫　逸山
乙女の初参り女日本寺　岐守
堂の燈の凄さん女人堂　擣堂

山城
○千菜寺

仝
法輪寺

汐まてとお紙書し女人堂　?清女
白露の寺くそかきる気女人堂　義女
朗哉仏手を合わす千菜寺　莱亭
山寺く椿散ぬ千菜てら　白絲女
花に秋や屋根勢添しかし千菜寺　谷雄
鶯よも河ぐし乞なき千菜寺　禾木
法輪の花をうつ法雨来る哉　士朗
法輪の砂花つもりぬ春の月　莱亭
梅かまや蘇子灯のある法輪寺　埏翁
法輪の花よも来る子参りかな　菜所

○仝 本國寺

万葉の体こそ実や本国寺　素芯

何事よりも縄の手すり本国寺　禾菜

○仝 本願寺

大坂の牡丹ちらけぬ本願寺　召波

七夕の夜も余所よりは本願寺　乙二

出かはりやそのまゝてらん本願寺　春魚

時雨るゝ日植もわるゝ本願寺　巍道

鶯や所違へよるな本願寺　乎喬

○大和 法隆寺

一葉ちる畑もこえて法隆寺　東哉

せみ鳴や六角けで法隆寺　阿古丸

麦秋や木きざゝゆる法隆寺　禾木

○三河 鳳来寺

草ずりや百合の花かくれて鳳来寺　閑臺

声よく入るいろ沢や鳳来寺　青霞

○武蔵 本門寺

日形しも隠しかくしや本門寺　宇橋

木兎や折よく月も本門寺　東湘

涅槃仏や西をうしろに本門寺　曽人

○山城 平等院

堂遠く平等院のすゞみかな　宗拱

川舟は平等院の木奥かな　君繡

春風や平等院まで暑くなり　守三

○武蔵 平林寺

秋風をそゝぐぬりもかし平林寺　五陵

鶯やおぼろ月の出や平林寺　柳川

山城
○東寺

先涼めや東寺ハちら〳〵風ところの　呂波

塔一つ茂りの[illegible]　玉水

祇園会の余所ニ東寺の静也　左一

鶯の何ちこちと鳴ふ東寺かな　地弥

西院の[illegible]東寺のつゞき雪あかる　亭攜

仝
○東福寺

木枯や松ハ[illegible]東福寺　成美

冬枯や紅葉の中の東福寺　岳輅

回廊や[illegible]東福寺　得一

大和
○東大寺

[illegible]や[illegible]の隣とふ東大寺　蕪村

いと秋や菊ニむかふ東大寺　大江丸

河内
○道明寺

虫干[illegible]道明寺　希揚

日ぐらし[illegible]秋[illegible]白いや道明寺　十允

武蔵
○東海寺

生海苔[illegible]東海寺　呂[illegible]

涼し[illegible]東海寺　み茂

[illegible]の[illegible]東海寺　免[illegible]

[illegible]や[illegible]一木[illegible]東海寺　護物

山城
○智恩院

智恩院の[illegible]しや東山の風　鉄夢

町中ニ擲入るや智恩院　闌更

涼雨も小[illegible]智恩院　一茶

[illegible]智恩院　鳳也

相模
○茶湯寺

撞なて涼しく集めぬ智恩院　夢九

かんこ鳥啼や経よむ茶湯寺　雀角

涼しさは遥にくるよ茶湯寺　柳囲

菜茶苦む粉かけ甚し茶湯寺　禾木

近江
○長命寺

雪晴やまた露ちるきも長寿寺　元雄

名月にすゞろ人入て長命寺　讓物

山城
○龍安寺

水無月や龍の眼ふりける竜安寺　梟居

鶯の響きよ霰ぬ竜安寺　啓山

信濃
○諸川寺

名月やよく見えてくる諸川寺　一具

落葉くや晩秋くさし諸川寺　莞尓

山城
○黄檗山

黄檗の寺敲桜さき木芽哉　魯仙子

黄檗の水無月さらしちらし麦　梅子

仝
○高臺寺

常も老ての枇杷にまじる高臺寺　芳長

紅白の鐘くさすむや高臺寺　甘古

笋月の杜ののぼり高臺寺　竹児

似ての月の雲や高臺寺　一貝

紅葉や日傘入る高臺寺　五陵

尾張
○笠寺

笠寺や埴なくする濡むしろ　士朗

かさ寺や鹿くちきし初時雨　葛三

笠寺や麦の穂てんの観音めぐ　雨考

甲斐 ○栢尾藥師

武藏 ○摠寺

美濃 ○柿寺

出羽 ○蚶満寺

笠寺に鈴打おかまん〳〵の同し　茅磨

かさゝぎや秋田んぼの宿泊して　雁嶺

木啄や栢尾の寺のさびしさよ　護物

時雨きめくし雪のかしらの茶堂　岐父守

みや寺のうしろの月の十三夜　一蕙

摠寺の灯も立まする彼岸かな　桟車

柿寺や落穂の中に日も暮る　士朗

柿寺と日比にみえる柳かな　蒼虬

柿寺のなをいのちや秋の月　妙扇

象潟の中にぬれけり蚶満寺　佐平

近江 ○横川

山城 ○大佛殿

仝 ○寶寺

秋風や伊吹のとりは鯖満寺　真侶

ゆく春や横川へのぼるいもの神　蕪村

木兎や横川の杉に夜啼　素人

さびしさや横川の鐘も雲の中　玉光

大仏の柱くゞるや春の風　二柳

大仏の屋根をとりまくつばくらめ　士朗

大佛の餅をさしまねて小蝶哉　蕉雨

むくつけき紅葉に遅き犬や宝寺　蕪村

春の田に畑も頼むや宝寺　三子雄

木兎の鳴くや月夜の宝寺　光浪

○仝 大徳寺
北ハ芸に根ざしてゆる大徳寺　召波
田に鳴る水のまへも大徳寺　椿堂
風つゝぬ梅の匂ひや大徳寺　芝郷
百合提て大徳寺もちる志りくさ　草也

○仝 醍醐
醍醐もてる二度に咲ぬ梅二本　召波
夕さくら醍醐の梅の白う咲　環山

○大和 達磨寺
嵐るも香るゝや達磨寺　みち彦
達磨寺法はなれぬ菜の花　守豊

○仝 當麻寺
當麻らし木槿さく日を庭にけり　嵐香
葉さくらや當麻の様のつぼ口　馬梁

○仝 橋寺
久方の橋寺ちかき川音も　大江丸
よきしまや橋寺も田の花時　甬浪

○武蔵 竹柔寺
子よりしても時鳥の啼ては　みち彦
五月雨の志みわ寺のけしき哉　宁撟

○下総 大巌寺
凉しく涼や寺ハ時くゑ　双史
初雪やて物あを伐大巌寺　巣兆
青田吹風のむかふさよ大巌寺　大鏡

○山城 双林寺
山吹花や絵の方へく双林寺　雨鴻
鶯の水ぐけさくや双林寺　淡水

○大和 深井寺
降つゞく雨に新て深井寺　芽麿

武藏 ○増上寺

汲てしる水のぬるみやそめ井寺　亀貞

すみ風や花のさく人増上寺　中露

春雨にあそこさし芝の檀　双湖

塔高し木の葉よく散る増上寺　亦去

大和 ○壷坂寺

壷坂や佛の縁もちるもみぢ　春路

はな坂やそろえて通ふ詣の寺　忘竹

山城 ○南禪寺

茶相や数を見たしの南禪寺　藏六

葱刻む佛もちらり南禪寺　キ堂

ふりかゝる雪見豆腐や南禪寺　護物

武藏 ○中野塔

孫梅や長者屋敷の塔佛　田都喜

見てもとる中野の塔や雲の杉　小圃

安房 ○那古寺

子あふや中やまは塔の実の中　護物

那古寺の檀や浜くるは咲いそさき　逸山

那古寺に檀の香ふし雨　旬光

丹後 ○成相寺

ちりて涼し松風の檀は波の音　柳居

紫おや波の底まで雲の檀　禾木

越中 ○那谷寺

那谷寺や池の鬼門雲の雪　梼良

葉櫻の木の下に涼し那谷の石　吁亭

紀伊 ○那智寺

いかる会や那智寺の檀　一蕙

本うるしや玉井をぬる那智の坊　一肖

武蔵 羅漢寺
遠江 無間寺
山城 雲林院

羅漢寺や人数かくれて鳴蛙　谷雄
羅漢寺や貝売くる紀念の月　玉鉉
羅漢寺は仏になるさむさかな　亀年
羅漢寺の露みなみかやものゝ人　東城
羅漢寺は一偈ともなし杜宇　麦阿
無間ちや鹿もゆるさぬけふの月　玉光
無間なる鐘の音や雨を接　宇橋
松ゆ夜も雲林院もきくほとゝぎす　麦村
樟方や雲林院の小柴垣　一宵
照りそふや雲林院の月の霰　連志

武蔵 浦島寺
仝 上野
仝 梅若塚

むつ秋や雲林院を垣隣　巴水
ふきよせや雲林院の人の声　潦水
時鳥や浦島寺のうら表　長翠
十三夜浦島が妻の明　護物
蓮池や上野の入日あさからぬ　玉川
ちるはなや入相つく上野かな　卓池
若葉して人出る上野かな　涼谷
雀子や上野の坊の餌帰條　芑竹
頃哉子露まで上野や春ところ　可景
梅若は柳も雪の行方哉　参彦

近江 ○浮御堂

大和 ○岡寺

山城 ○空也寺

梅かゝの露は木像よかくれなし　阿恵

十三夜の月をこゝに浮御堂　方明

舟よせて稲かけりや浮御堂　椿堂

鳰の巣のさまをはじめや浮御堂　梅價

鳫を待人の的や浮御堂　釆友

水鳥のよう見日和や浮御堂　好く

岡寺や秋のこちよき露の昔　里涛女

岡寺や禱もをしけて春の雨　吐山

空也寺の歌念仏垣とふかな　恒丸

撥擱の床を風吹や空也堂　鳥琴

仝 ○鞍馬寺

仝 ○黒谷

鵆や雲はたゆすし空也寺　雲帯

声吹や月もつて空也のちの垣　布雪

空也寺の鉢竟後減る花かな　呉洋

うるの背におろし鞍馬の笹猿　禾彦

木つゝきの今井川すぐ鞍馬寺　一撲

黒谷の初夜をきく月の丸山ぞ　几董

黒谷に撃ても見や丸山桜　宗讃

くろ谷を退きても来や宋吉ゐる　右臺

黒谷のゑそかしくや ちる銀杏　巴水

くろ谷の塔しらじらと露路かな　春路

秋久
也

○大和 元興寺
元興寺ちからくらへし鬼の火　玉光
元興寺と云ておとろしいかな秋　梅寿

○駿河 久能山
久能寺の薬や十月も待宵　其光
白雲や久能の山の杉の秋　秋朝
見はらしの日や雲の府なる久能山　清風
久能寺や月をうつまする白　希拙

○武蔵 寛永寺
ころもかへ鳥たちのや寛永寺　詠帰
雨さへ入上野のもみぢや寛永寺　川我
たつのまつりよろこぶ寛永寺　護物

○上野 光泉寺
田炉裏より水諒ぬ光泉寺　而后

○陸奥 黒塚
鶯の小声しぐれし光泉寺　箕山
黒塚や納い人くけ逃ゆく　暁臺
くろ塚ハ五月目かくや物鬼　赤守

○武蔵 柳島 妙見宮
乾煮や江戸の田舎の柳島　太良
人なき深山には柳島　雪濤

○摂津 摩耶寺
網の比羅尻くだりけり　春路
摩耶寺の岩や蜻蛉の秋　大梅
まやさんのゆく很や秋の空　菓二

○相模 松ヶ岡
更衣の事縫つくる松ヶ岡　蕪村
世のおもはくそ松ヶ岡　護物

○下総 真間寺

菫つむ子等かなしき寺の川なる　尼代女

白露のぬれてなきぬ木々の寺　日人

入海やかのりに　あさ日の清　南涯

寺は[illegible]へ[illegible]鴨の声　應々

○山城 建仁寺

三味線や[illegible]雨の建仁寺　素卿

建仁寺の垣結ひぬほとゝぎす　兮彦

初[illegible]建仁寺　布雪

○相模 建長寺

月[illegible]人建長寺　暁臺

[illegible]や建長寺　多代女

[illegible]植の[illegible]建長寺　之兮

○相模 藤澤寺

[illegible]藤澤寺[illegible]葉[illegible]　蕪村

萩[illegible]や菊[illegible]　天外

[illegible]や夕[illegible]の[illegible]　豊女

[illegible]の[illegible]　雀角

○山城 小町寺

年[illegible]や雪の小町寺　蕪村

[illegible]藤[illegible]小町寺　青阿

[illegible]小町寺　護物

○仝 戀塚

恋塚は[illegible]　都雀

[illegible]塚や[illegible]ぬ　尺艾

[illegible]入の恋塚[illegible]　他力

仝
○興正寺

日ぐらしや[illegible]の恵塚[illegible]　夜鹿

恵塚の松も一本[illegible]恋し　大鏡

[illegible]の薄紫の興正寺　長扇

尾花[illegible]興正寺　湖月

河内
○粉河寺

紅葉や粉川へ来る新発智　詠帰

[illegible]東のはしらや粉河寺　春路

相模
○極楽寺

牛ひいて[illegible]や極楽寺　みち彦

茶山[illegible]や秋月涼し極楽寺　阿恵

武蔵
○護国寺

護国寺や松の[illegible]の梅の花　谷雄

護国寺の時鳥入ぬ春の雨　一肖

仝
○駒形堂

護国寺を通りぬけ行麦の秋　小園

[illegible]や駒形堂ハ人の中　季彦

駒形や[illegible]立し[illegible]　宇橋

常陸
○根本寺

[illegible]梅の朝日や根本寺　恒丸

[illegible]根本寺　一肖

山城
○恵心寺

恵心寺[illegible]　蓍乱

恵心寺の粥[illegible]や霞[illegible]　静観

恵心寺の[illegible]　國村

恵心寺のやよ[illegible]　汶水

恵心寺の鶯やすゞめの[illegible]　元風

甲斐 ○恵林寺

恵林寺の落葉ふりかくる桜かな　元風

恵林寺秋来や月の小はしら　揖暮

恵林寺の庭由ありや子規　護物

近江 ○永源寺

永源寺ひかへ稲もさくや菱ばやし　呑喜

白い面に紅葉ん越しぬ永源寺　竹窓

山城 ○天竜寺

さゝ浪の東の月より照て天竜寺　暁臺

花晴ぬ寺も面白しや天竜寺　環山

摂津 天王寺

梅の木に鶯鳴身て天王寺　乙汝

天王寺ときゝて出て桜のぬし　長翁

仝 ○

鈴菊や木せのいくめて天王寺　一肖

芽さくは八葉なりて天王寺　猿年

遠江 ○秋葉寺

卯花や卯月八日の天王寺　尚良

月出て木葉の中の秋葉寺　長翠

秋葉寺ふくおほろ〳〵梅の香　衣門

仝 ○油山薬師

この比の虫祈らるゝ油山　呑喜

清き風の明るもさくめ油山　護物

武蔵 ○浅草寺

元日や羽黒たちて浅草寺　心逝

ての川浅草寺鳴くて或　上総 梅夫

夜の雨や月浅草の雲雀　了濃女

憾ふくも浅草寺の通夜の月　双史

筑前 ○安楽寺

鶯のなつくも古巣や安楽寺　石湖

万代の栄の尾や安楽寺　旻桂

月をさしてよみ乙る花も安楽寺　僊物

武蔵 ○総泉寺

こゝろなくも枯をみんとや猫みる　草均

はつ雪や松ふく総泉寺　好く

仝 ○笠寺

笠寺や雪に照るきし何かりに　両賀

笠寺のかけて雲さへ花ぞまつる　宇橋

山城 ○妓王寺

妓王寺の結清らに何ぞ涼し　素芯

妓王寺の月や西をさしてまち　杉長

妓王寺は枯尾花の外に哀れなる　詠帰

仝 ○清水寺

清水へかねをきゝけり蝶なくは　松兄

雪の朝なる清水あたりの娘ぞ　両賀

清水や物礼解ある春日さし　護物

仝 ○金閣寺

時鳥も世界の色をさそ金閣寺　闌更

武士文入やまさし月まつく金閣寺　大江丸

若葉風や松の吹ふる金閣寺　和来

夜時雨の嬉しきかのや金閣寺　茶静

秋の夜や雀の巣れ金閣寺　一貞

仝 ○銀閣寺

銀なはや何をふる清めさる銀閣寺　草丸

稲刈や繰てなしゆる銀閣寺　玉芙

駿河
清見寺

月に清見清見も秋せぬ名は高く　孤彦

十月の不二のしろさに清見寺　恒丸

唐船も波にやすらふ清見寺　其翼

白波にさへ散る楓や清見寺　菜静

安房
清澄寺

清すみの池は見の底ちる紅葉　逸山

清澄は山の名にて涼し秋の暮　杉長

清澄や露の香ふる日向の井戸　越児

近江
義仲寺

義仲寺の文濡てあるしぐれ哉　素芯

義仲寺や猶ものさびし粟津原　雉啄

義仲寺の菊は名残りにさかりかな　駿吉

丹後
切戸文珠

はしたてやもとより文珠にかへるなる　蒼虬

いろある秋群をとゞめぬ切戸哉　玉光

雄さりし秋切戸の渡のやすらひぬ　桟車

木枯の月や切戸の渡り口　里丸

紀伊
紀三井寺

咲きそめのこゝろまちさへ紀三井寺　遅竹

紅白の桃に何ひとつ紀三井寺　句光

あはれにつゝや日暮るゝ紀三井寺　一擽

武蔵
目黒不動
竜泉寺

鶯もかゝる十月過ぎて寒し目黒年　帰焉

よそに見る月見の櫻咲きこゝし　詠帰

松風や夜をひらきて竜泉寺　玉光

○山城 壬生寺

飛もする畑壬生寺の影筋さへゆ也　弄山

壬生へ行白粉雨にふるやりぬ　田都喜

壬生寺を出ていて菜の吉田ぞ　一肖

笹世には念仏のもらぬ壬生念仏　春路

菜の花や壬生の踊のはなし行　護物

○仝 御影堂

桐の花咲や昨日く御影堂　柔茂

六月の影にはゆるす御影堂　秋峯

菖蒲仏に夜干ぬる御影堂　素芯

乙鳥のとくまく白や御影堂　菊所

一葉ちる暖簾の影や御影堂　護物

○甲斐 身延山久遠寺

雛行の跡の出てく身延山　古朗

鳥さへ呼くを聴く身延山　菖三

鶯の涼しさ久遠のうしろ山　谷雄

久遠寺秋遠く至る　移長

行先の絶ぬや身延山　又佐女

近江 三井寺

三井寺の鐘すつるや秋の暮　祐昌

門さりて三井寺かぞ人を　蒹也

そるてさて秋風の三井の鐘　素芯

木枯のきはつくや三井の鐘　晩籟

三井寺て月は晴らり麻光り　江戸 竹馬

志賀寺ハ彼岸桜の二月かな　風光

早蕨や子ハまだ花さくら?咲く?　雉咏

桜ちるくあたりかゝるゝ志賀の浦?　菜静

○日枝山　仝

比叡の風や志賀の花を押出くさ　米市?

大ひえや小日枝の下は桜の雲　蒼虬

花の雨比叡見えぬ人もなし　素芯

春風にはしる人も計日枝の山　[illegible]

比叡をはづして鞆生へ出し野牛?　菜静

武蔵　○木母寺

木母寺も蓮子からん卯月かな　みち長

木母寺の桜ハ八重なし峰?の梅　伯先

○山城 真如堂
との積ゝ志ら水ぬるし真如堂　芳先
秋枯の夕ぐれ淋し真如堂　一樓

○七大寺
奈良七重ふるや時雨の七大寺　撲堂
いざ出て鐘聞かん七大寺　魯隠
古草や花のさき残る七大寺　卯斯
苗葉の畑つゞきや七大寺　謙物

○武蔵 称名寺
夜寒しる水や積もるらん称名寺　冥々
くもり月も昼頃よりや称名寺　孟長

○近江 志賀寺
志賀寺や桜に夫の二人杖　乙二
志賀寺や花のいとまの舟一里　雨洲
志賀寺は霞む梅の二月かな　風吏
昇殿や子は志賀寺の積み花　雅咏

○仝 日枝山
猿うろく杉のもちはや志賀の積　菜静
比叡の気や虫の庵を押さへさ　禾穀
大比えや小日枝の下は梅の花　蒼虬
花の雨比叡見えぬ人もなし　素芯
東風ふくや鹿ふく計日枝の山　其淡衣

○武蔵 木母寺
比叡を出て騎馬出しより牛　菜静
木母寺も蓮子から卯月かな　みち長
木母寺の梅は夢なし嗚呼　伯先

下野
○茂林寺

木丹寺の始さふくさや萩と月　秋峯

木丹ちるこゑの尽きや時鳥　谷雄

木丹寺の夕孤冷し萩の露　菱垣

茂林寺や振れし縁の蜀魂　米彦

茂林寺の旅ゝ中よし故咲る　梅寿

山城
○清閑寺

鶯もちらし清しや清閑寺　暁臺

わか葉して外の中なる清閑寺　蘭更

菫つむ女もうくし清閑寺　護物

仝
○聖護院

月みてふ人ゑや月夜の聖護院　烏順

鳴く人は鶯なし聖護院　五隣

早桜や人の通らぬ聖護院　孤帛

梅うゑてや冬の咲ぬ聖護院　句光

花桜や町並見て聖護院　大梅

大和
○世尊寺

世尊寺の庭の桜も散暮かな　亀白

世尊寺は花ちる雨の名残かな　護物

伊勢
○世義寺

世義寺はくもよし行きて秋の暮　羅城

夕立や世義寺は昔も流されけ　みち彦

世義寺は一すぢ流や稲すゝめ　一肖

仝
○関地蔵

秋ゝ川や寺の地蔵のこは来米　斗入

古塚の寺の地蔵や露ちらる　護物

武蔵
○泉岳寺

給ふ人今宵のえ（？）も泉岳寺　東鱗

弁堂ハ[illegible]泉岳寺　一ゝ

泉岳寺の[illegible]や[illegible]　夜鹿

近江
○関寺

関寺や灯よりこほれて[illegible]　護物

信濃
○善光寺

善光寺秋の月よ詣人のあつまる　標良

このふまで掌ハ[illegible]善光寺　杜蘭

[illegible]柳やうる山家の善光寺　一貝

あへ人の古里なるらん善光寺　日行

睡おもてし秋の能日や善光寺　玉蓮

山城
○墨染寺

[illegible]や墨染寺ハ[illegible]や灯寺　阜二

摂津
○須磨寺

梅[illegible]や墨染寺の花咲ぬ　護物

須磨寺の秋を泣かする黄　長齋

須磨寺の隣ハ月とさくら哉　岱年

須磨寺を尋ねてあるく[illegible]　塞馬

須磨寺は[illegible]の鳴　柿麿

陸奥
○瑞巌寺

すゝきハ東のこころさし[illegible]　大梅

東の東の月上る瑞巌寺　乙二

杉の[illegible]瑞巌寺　麦園

○神社之部

○濱社

春雨や傘さしつれし濱社　白雄

姥ゞふまへて鴫のうらみし濱風しる　亀白

松ヶ枝の青も日永し古社　護物

○古宮

古宮や志のぶもかけぬ草露も　嗽石

ふるさとは社の若葉や茶古宮　梅塢

○今宮（摂津）

いまみやは蝶帰さしし時雨　呂波

さくらに月夜ハ寐しし春の草　之醒

○生田社（仝）

里人やまめて生田の里祭　月居

冬の月生田の社何ハ也　元耀

○息栖社（常陸）

さく梅の息栖ハ梅の先ぞかし　恒丸

かくこそは息栖の雛の汐くるゝ　啓山

水際の汐や息栖の東の浮くゝ　如萊

○嚴島（安藝）

梅が香や鳥居もひくやいつくし哉　葛三

春の夜の鷺も社に寐ずに居ぬ宮　葵亭

海原や汐みちてゐる社の水　甘古

佐保姫の古へ参まや嚴島　旨臺

稲の穂をいろく麻や嚴しく滋　菜二

○神社之部

○濱社

春雨や傘さし連し濱社　白雄

帷子もふきし暇のなくて濱屋しろ　亀白

松ヶ紗の青田流して濱社　護物

○古宮

古宮や志賀の花ちらす草露も　湖石

みすゞかる湖水のきゝらや架古宮　梅塢

○摂津 今宮

いまみやの社燥帰さし時雨　呂波

さみだれ社月東ハ早し衣の竹　元醒

○仝 生田社

里人やまめで生田の里祭　月居

冬の月生田の社はづかし也　元耀

○常陸 息栖社

さくら梅の息栖ハ梅の名處かな　恒丸

かたくれ息栖の雛の汐ふるき　啓山

水鳥の浮や息栖の東の浮くら　如茨

○安藝 厳島

梅さくや身のさゝひくや々志波　嵩二

春の夜の灯のかけ明かり数く宮　葵亭

宮島や汐よせちるさくらの水　甘古

佐保姫の古さや厳島　百臺

稲の花いつくし麻や厳し島　蘂二

山城
○橋姫宮

はし姫はちりさりき祠の雪　春鳴

橋寺の[illegible]し姫の夕　柳　素芯

はし姫の灯を[illegible]　沼人

橋ひめのうしろ通るや春の[illegible]　呉尭

出羽
○羽黒山

下[illegible]羽黒山　柳九

かすみさや梅を东の[illegible]山　長翠

出やらぬ春の月を羽黒山　溂帰

涼しさや[illegible]の羽黒山　鶏周

武蔵
○新田社

むら雨や新田の神社[illegible]　里湯女

春風の[illegible]進まぬ新田の[illegible]　希揣

仝
○富丘八幡宮

山明や[illegible]　找車

[illegible]の日や[illegible]杖持や[illegible]　亦云

牡丹[illegible]　さちを

信濃
○戸隠山

戸かくしや日[illegible]山[illegible]　可厚

[illegible]や[illegible]　叢

山城
○地主権現

[illegible]さめや地主[illegible]の[illegible]桜　存義

[illegible]の[illegible]地主の[illegible]　暁臺

山々[illegible]ものや地主の花　直也

近江
竹生嶋

鶯や地主[illegible]の[illegible]　楚龍

初[illegible]や[illegible]竹生嶋　夯尭

山城 ○橋姫宮

はし姫ハちからなき祠の雪　春鳴

橋寺の隠れし姫の夕柳　素芯

はし姫の灯をとて桜のまつ夜哉　沾人

橋ひめのうしろ通るや冬の鷺　呉尭

出羽 ○羽黒山

下露に行く身をそへて雨し羽黒山　柳九

かけはしや梅ある末の花くもり山　長翠

出やらぬ春日の月を羽黒山　諷帰

涼しさや声をとゞむる羽黒山　鶏周

武蔵 ○新田社

むら雨や新田の神は稲の節　里湧女

春風の吹くほど進む新田の社　希揣

○富丘八幡宮

山門や老の上にもさくらの花　找車

あるの日や鳩子杖持やる岡の花　而玄

牡丹花や年中宮の宮の庭　さちを

信濃 ○戸隠山

戸かくしや日本見ての霧も山鏡　可亭

戸かくしや雲を乗手に雨時雨　叢

山城 ○地主権現

碑きめや地主の谷の遅桜　存義

菜の花や八重に地主の春まつ　暁臺

ふりかふる花のものや地主の花　直也

近江 ○竹生嶋

鶯や地主の松風の嵐の春　楚龍

初冬や船旧の風さて竹生嶋　蕉雨

武蔵 王子権現

山城 賀茂社

涼風やさゆるかくるゝ竹生嶋　和月

漣やおほろ移りに竹生嶋　鋒舎

紅鳥の露より高し竹生嶋　東琢

夕立の入日持けりや竹生嶋　一種

若楓王子の森とそてゑし　佛朔

初午や江戸に栄る王子原　乙人

春の蝶をおとし蹈出王子に手かけて　上毛 里丸

まつぬるや王子の北の山さくら　詠帰

賀茂の竹を語りし先に鳴く鶯　暁臺

かもへ来て篝火の淋し清水の月　乙二

大和 春日社

摂津 高津社

伊勢 神路山

鶯雀が茂の社ならびけり　谷雄

十月やかも茂の社の大掃除　一路

草いまだ葵にさゆるかも茂の秋　護物

猶月まつ日の鹿のすそえゆく　西六

こゝろもの元春日の南野はづる　東芽

ゆくしさ梅や高津の籬まで　雨湖

桜のあらく中々かはの社の露　禾木

雪解ぬるまも川霧神路山　其彦

かゝるの心人をもつらん神路山　蒼虬

秋来ぬる草木も雨めく神路山　知牛

武蔵
○神田社
柴崎社モ
○仝
亀戸
天満宮
○下総
香取社

花一本いつくしさき神路心　百慈

秋に逢ひてひとの気色や神路山　護物

寺桜さくも花見ゆるや神田川　梅寿

柴崎の神木にさゆる堀の月　一司

鶯や亀戸へまゐる船さかり　奎儀

呉竹や亀戸の名残たるの雨　護物

猿ころもよしなれぬ月の霞　春鴻

咲くめ鈴香るハ雪の文字ゝ　恒丸

こゝろにも霞こそ香取の鳥居かな　五十二

鳴ちどる雲の暮れや南かな　千賀女

常陸
鹿嶋社
○豊前
高良山
○近江
多賀社

五月雨を何もかしまの浮鳥　みき蔵

水札なくや鹿嶋かえの下や泊　梳串

春風や雨の旅立のかしま潟　双史

水音にすゞしさまや高良舟　いと女

霞さへ背に霞業のさかりに高良山　尾花

杉の山こゝ高良をさへてかすむ　恵竹

鶯の啼や多賀の道ハ雪のける　栗大

梅白し多賀の社の門遠人　椿堂

草青やむかふよりたゞ多賀の庭　文卿

志ら〳〵と多賀の鶯が音〳〵ん　の捉女

越中 ○立山

立山や雲を分入雁の声　携良

越中ハ立山の月あかりかな　玉眉

立山ハいつも気の月夜かな　布雪

立山や雪より先に秋の暮　甘行

立山も遠く人と伴ひけり　双湖

紀伊 ○玉津島社

初汐の寄せて来るなり玉津島　春路

春の夜や春の中行玉津島　護物

下総 ○曽我姫宮

曽我姫や探る路に出る風の中　雨塘

その姫や海へも向ひ百合の花　玄々

尾張 ○津島社

合歓の花さくや津島の暮の汐　梅壽

武蔵 根津権現

かゝる汐の津島祭や風の音　滄洲

日のさしし根津の社や蔭さしこ　好々

宇治橋の御代よりさし祭かな　双湖

秋寂て水に根津の紅葉哉　石湖

早苗時や根津ハ陰さす通り道　護物

下野 室社

掛乞ハ迷ぬや室の八嶋道　白人

雨ふりて紫や室の夕まくれ　巴蛍

雪との峰室の八嶋の杉の上　菊亭

行ぬしはすてりや室の八嶋杉　栄壽

子をもちて嬉しの暮は室の八嶋　忘つ女

○筑前 宗像社

草笛の宗像まて放つ小車かれ　旻桂

宗像や林しる浪も西比邑の声の　護物

○山城 太秦社

太秦ハ竹はかりてし旻の月　士朗

太秦やワつ紫の松るも灯のともる　野揚

西山や太秦まてハ長く長く　嵐外

太秦の薮ありける大根かな　井里

太秦の森から見ゆる野の若葉　護物

仝 梅ノ宮

川風や蛍くるしき梅の森　東蔵

涼しくも地なかれ松の尾うめの森　斗行

鶯やきゝふハ梅の尾梅の宮　元風

○武蔵 牛御前社

鵆にも牛の御前の日和かな　衣月

牛嶋ハ月さしこむの森かな　喜撰

山城 野々宮

秋のこゑや只吹かよく秋の風　雨考

野の宮秋淋しく清れ郭公　一嘯

秋の宮秋来ハさびしき宗舎言　涼濤

野の宮秋は何ま又あしなし納豆汁　月底

秋も今乃蝶の秋色や夜の声　素撲

○摂津 呉服宮

虫なくや呉服の宮八露の中　屋烏

秋さびや呉服の林の紫紫　淡水

秋の気や月も木そその林かな　桟東

出羽
○月山

月山の雪はつもるかきりなし　嵐丈

月山の雪きゆる夜や時鳥　一具

涼しさは世に月山の秋葉哉　一肖

五月雨の雲をはなるゝや月の山　箕青

越中
○倶梨伽羅峠

くらかりや磨るに月の出し峠　甘行

倶利からの秋や氷柱もちのとり　岐久守

山城
八幡山

いはつの霧や紅葉さへすくはるし山　叢

山葉の薮にかくれすや八幡山　梅塢

越後
弥彦山

春の山弥彦の花を彩の下　乙二

雪おりの小豆はしりや弥彦山　篤尭

稲の香や弥彦の山の雲初る　東嵘

文字にかや弥彦の夜のへ　赤守

大和
布留社

月落て布留の社は散紅葉哉　如雪

木枯や布留の神杉吹おろして　世南

婦女に浅緑布留の社は花　元風

鶯のさしも布留の表田哉　夏桂

春の海につけても布留の社の菊　護物

相模
江之嶋

江の嶋を見つけて居し砂の上　谷雄

江の嶋や月八十日の遠かりし　一具

江の嶋や何とも見えて嶋千鳥　一瓢

下総
○手児女社

山城
○愛宕山

和泉
○蟻通社

江の嶌に篝焚く夜の汐白さ　豊女

江の島の雨ふりけし寒の入　茶静

何よりし世にゆかし手児女か妻の秋　田美

紫陽花やてこなの森ハ雨の中　大鏡

竹伐や愛宕も山ハ雲ゝのこし　一肖

農ハ山入の若を咲るや秋日和　蘭舟

明月や何ゝろゝ動く人のうけ　谷雄

雲の路あゝその山を中にして　岬孫

青梅や若葉下葉をかへりさく　禾葉

身ひとつに比へる芭の雨や蟻とをし　蟠

伊勢
朝熊宮

尾張
熱田社

遠江
○秋葉山

下総
阿諏訪社

夕立の露も手洗に浅間し　石湘

扇より大きく朱塗所を山　赤守

畑ゝち秋も連出来て秋熊山　了女

秋くまや木草もおかし五月雲　護物

涼しさや熱田の浦風にかけ　三仕

初春のあしやかつき社の鳥　旻桂

切抜の秋葉ゑ夜を遊ひぬ　越児

夕やその秋葉へうる田植らか　沙明

かんこ鳥呼や秋葉の楚ひかりけ　复桂

皆ふしも影のなかにハの子供哉　玉光

紀伊 ○淡嶋社

梅か香やはすへの小紫いつ枯し　句光

淡嶋や幣にかくるゝ雛の膳　草雅

乃ふの桃かさす淡嶋かな　護物

山城賀茂 ○齋院

斎院の人鳥の巣をたくしけり　車両

いさよひや斎院の世のおもかけ　梅寿

大和吉野 ○藏王権現

紙あそひや蔵王の鼻の下　存義

花を嗜て蔵王の肩口へ露こほる　護物

甲斐 ○酒折宮

酒折の楠もちやけ狩子の声　呑霞

酒折八十日も過し菊枕　乙二

さら紗やはつも初音の杜鵑　甘行

讃岐 ○象頭山

涼折のもりぬかあるや小田千原えし　護物

雨ちらら霊さしいゝるる象頭山　月居

峰ゝはの若木涼し象頭山　嵜瀾

様々の雁を押へや象頭山　谷雄

山城 ○祇園社

祇園ふて鼓八日の祭扇ゝ舞　涼袋

むら紫祇園の神楽すゝみ　鶯亭

仝 ○貴船神社

山吹もちりて貴船の深みかな　雛駒

卯の花も貴船の巫の篝哉　呂波

貴船の巣やいつも貴船の時鳥　竹児

灯のしめり貴船の苔や時雨　多代女

阿友
寿

○備中 吉備津宮

立留る人もゆかしき春の灯　化虵

青柳や吉備津の宮の御釜前　夏桂

もち番ハ吉備津は御釜の響哉　護物

○出羽 湯殿山

清くしてまた汲ぬ湯殿の人や雪の峰　烏明

雪ふんで行つきし涙の湯殿かな　柳几

下りて頭を下げて涼しき湯殿かな　鶏周

○大和 三輪社

五月雨や酒の香のむらしき雨　仙兆

稲道に三輪の嵐のかくれ足　呼亭

うけつつ雪の一つは三輪の杉　雀角

振りはらうち光えて三輪の山　蕉實

○伊豆 三嶋社

神々松や落葉もふまじ三輪の山　梅壽

月のかかる山のかくらし三輪の外　さすか成

柳枝ぬ三嶋の水かいさ勢かな　みち義

鶯の声ぬるし濱の若の色　五晄

いそはまで蝶もう三島の麦畑　有臺

○武蔵 三囲社

三囲る枯鳥居と見る杉菜哉　菓兆

光めぐるの華表もさし佛の旅　郁積

三囲や月夜とかけて咲く雀　叢

三囲や田に上るのも蕪のかかし　淡水

蝶ふはり田を越へる遊ぶかな　護物

仝 ○水稲荷

只たのむ花に渡るや水稲荷　西月

ちる花の風にさそはれ下る水稲荷　盤扇

信濃 ○御嶽山

御嶽や雪ちる中のきさらぎ　素檗

錦する峰や御嶽をおろす若葉の雨　元風

鶯も新緑まで（?）この御嶽哉　志公

上野 ○妙義山

さくら咲く峰もみえぬ妙義山　石嵐

青山に妙義のそびゆる霞かな　奥丈

山城 下鴨社

下かもの鼓きこゆる土用かな　一肖

下鴨に人遠ざかる夜かな　菓処

下かもや日毎に戻るうち一貫　亀白

仝 ○神泉苑

ほとゝぎす啼や神泉苑の夜の雨　米佛

雲の峰神泉苑の空に立つ　菓舟

新紅の嘴や睦や神泉苑　丘円

美濃 ○恵那山

桃さくや一日ましに恵那の雪　赤守

恵那の雪山の初日をのぼるばかり　竹廷

紀伊 檜隈宮

むつのやや初陽炎の水のうへ　旻桂

檜隈や日に法しむふ錦のあと　謙物

豊前 ○英彦山

英彦の松もあとめぐりふけ　葵亭

秋霧に松のわれや英彦の山　一肖

摂津 住吉社

住吉の中ありて郭公　外亭

住吉や夕日のもる〻雨の中　田都喜
住吉の昔明ふる〻し松の雨　涼谷
すみよしや先を明に秋の月　秋舟
住吉の灯もり早し秋の留主　大梅

伊勢 ○伊勢蚕
上野 伊香保風
伊勢 濱荻

○雑之部

いせの蚕も寝る日は清き雪　ホ蓑
伊勢子は身は草の伊勢の海士　尺艾
明月や梁と揃ひしいせの蚕　谷雄
伊勢の蚕も更に糸まで伊勢の蚕　護物
いかほ風明る〻ほど日和かな　冝つゝ
きくらし月をすまし伊香保風　應尼
伊香保風ふくや盃吹百合の上　以吉
きくらし花は浜荻の　時喜嶌
浜荻のむつまじや寄の秋　くら女

住吉や夕日のもるゝ雨の中　田都喜

住吉の宵明ふるさし松な照　涼谷

すみよしや光をうらなみ秋の月　秋舟

住吉の灯ちり早し秋の田毎　大楠

伊勢
○伊勢蜑

上野
伊香保風

伊勢
濱荻

○雑之部

いせの蜑も涯る日は何ちうもる雪　其陵

ゆかしさは白い帋つ伊勢の居士　尺艾

明月や勢と拘しいせの渡　谷雄

伊勢の縄やうとし年も脱ぬ年　護物

いかに伊香保風吹くる　妹が来よかし　冥々

さくらしらし月をすまぬや伊香保風　應尼

伊香保風ふくや気咲く百合の上　以吉

さくら咲しあとは花かる濱荻の　時喜嶌

まつ濱荻のむつまじけるや雲の秋　くら女

相模 ○虎ヶ石

武蔵 秩父松

常陸 ○要石

近江志賀 辛崎松

淡雪は消えかゝるや虎か石もとえ　春路

春雨や川越てまくるや虎か石　乙波美

若草は濡てもさゝしくらか石　梅壽

雲雀と鳴く人ありしら虎か石　譲物

若稲の露はまわりし秩父松　長羿

ちゝふ松や霧の中より松の声　了湧女

松の木のあらしをちゝふの紅葉　可光

陽炎の周りをめぐる要石　柳几

鬱々の志ちかをもめぐる要石　玉珂

辛崎の松の秋も志賀の松　一草

多知

相模鎌倉 ○段葛

武蔵 ○高田馬場

陸奥 武隈松

若葉や辛崎の松二本ほそさ　少汝

辛崎二本てよし〳〵この美さ　一具

月をる身をうけもつや志賀の松　一星

のし崎の松は雨ゆく五月雨　草雅

時鳥かゝるや鎌倉の段葛　午心

ほとゝぎすまたき行段葛　譲物

満月をさす高田の馬場の月かな　玉光

若葉ちるや高田の馬場を日の暮　以吉

葛の色武隈の松は枯もしを　みち彦

武くまや爰の緑かな　川哉

相模
○虎ヶ石

武蔵
秩父松

常陸
○要石

近江志賀
辛崎松

涼み舟は以[illegible]石　春路

[illegible]川[illegible]石　三浪美

若草[illegible]石　梅壽

霧[illegible]　護物

苗稲の露[illegible]松　長昇

ちるふ秋や霧の中より松の霧　了瑞女

松[illegible]星雲　寸光

陽炎の[illegible]要石　柳几

鬱翁の[illegible]石　玉珂

来[illegible]松の秋も志賀の松　一草

相模鎌倉
○段葛

武蔵
○高田馬場

陸奥
武隈松

若葉や辛崎の松二本[illegible]　少汝

辛崎八本[illegible]　一具

月[illegible]志賀[illegible]の松　一星

[illegible]崎の松[illegible]　草雅

時雨[illegible]や[illegible]　午心

[illegible]段葛　護物

満月[illegible]高田の馬場の月[illegible]　玉光

若葉ちるや高田の馬場を日の[illegible]　以吉

葛の色武隈の松ハ枯[illegible]を　孝秀

武隈や[illegible]の[illegible]　川栽

播ナ
曾根松

駿河 冨士
○鶴芝

武蔵
○梅屋鋪

岩の上に松風くゝる曾根の宮　碧水

春風の曾根も待たし初袷　平雄

明月の松ならなん曾根の松　詠帰

つる芝も色にこもるの時雨哉　冬彦

鶴芝の春をいのちに麻の実　鶯笠

つる芝も霜に入しまくら月　菁麿

鶴芝にひかりて花や草まくら　梅寿

春の水風の庵や梅屋敷　古　政二

さゝめ安き夢をさそて眠め梅の雪　みち彦

名も今も咲かて待や梅の花　一蕙

曾津宇
雅矢不

伊勢
大淀松

下野 日光
○花畑

尾張 阿波手
○薮香物

伊勢
○不断桜

水鶏鳴東の岸に梅屋敷　川蜂

一枝に咲しも冬の梅屋敷　梅寿

大淀の松は宿かる陰し庭　白図

大淀の月よしみは松も昔　譲物

夕立や旅に花畑の二かんまさき　寄渕

夕露や陰のを畑の庵の子　庵十

名残入や余所の薮より八重のも秋　柳居

におふまて味ちえよ薮に香のもの　裊丁

花咲て梅のなる香桑もる　玉眉

一二輪ゆ咲て不断さくらや　壽翁

信濃 布施家

稲つみし稲城の中や布施屋かな　蒼虬

秋すゝき土にハ落ぬ伏屋かな　千崖

志ら露や山のはれハ竹も力　春暁

○相模 腰越

腰越や腰をかゞめてとし忘　召波

さいしこゑやゝてやまし貝の口　士朗

腰越やしらぬ昔の露しくれ　谷雄

ふし越の浦かとし雁飛磯の椋　二郎良

腰こゑの浪もとゞかぬ枝垂葉　讓物

○武蔵 五本松

くらしまやこの川上八九本松　昌作

嘗も水草に見ぬ五本松　杜英

方円を鶴巣に夜汐さすや五本松　菜角

○陸奥 九面

ほくつゝや金星も見ぬ岸の貝　一肖

こゝ清しや一夜ほとの霎の花　三竹

○伊勢 鸚鵡石

春三月物いへと来ぬも河のほとかな　大江丸

鶯の声もからさんよ鸚鵡石　紫湯女

陸奥 姉歯松

梅かによ姉歯しらて松老し末　暁台

出はに入る姉歯の松を宮川見　蔦三

あら涼る姉歯の松や出羽入　旬光

○駿河 はんさきの松

はんさきゝてよしの名も月の松　魚貝子

さゝん汐の松のみとりや東の海　里揚女

武蔵
都鳥

筑紫
しらぬ火

陸奥
○文字摺石

涼しさは都の鳥に[illegible]旅の空　谷樵

初鳥や知らぬ門に揚る旅の宿　木椎

秋風の都もとしらずや花の宿　清波

行くかや都の[illegible]旅しらぬ旅の宿　壷洋

鵜の宿も都を[illegible]や旅の宿　弐行美

草深くはてはしらぬ火の杖の風　斗入

しらぬ火の出て見し人もなし雨の星　弐行之

[illegible]に刻て[illegible]世をしのぶ石　玉眉

文字摺も[illegible]葉のいやう上　柳下

世の[illegible]もなくて[illegible]しのぶ摺　里嬌女

摂津
○住江松
岸姫松

住よしの松に[illegible]降る[illegible]　[illegible]

住の江の松もみどりや神の露　恒丸

すみよしの松の[illegible]よ[illegible]　東[illegible]

神無月岸の姫松[illegible]　謎物

和漢洋書籍發兌處

東京帝國大學　京都帝國大學
高等師範學校　第一高等學校
學習院　帝國圖書館　御用書肆

發行印刷者　大阪市東區博勞町四丁目廿七番邸　青木恒三郎

製本發賣所　東京市日本橋通壹丁目　青木嵩山堂

仝　大阪市心齋橋筋博勞町　青木嵩山堂

賣捌所　勢州四日市港竪町　嵩山堂支店

6279
受入
36. 3. 14

和漢洋書籍發兌

東京帝國大學　京都帝國大學
高等師範學校　第一高等學校
學習院　帝國圖書館
御用書肆

發行印刷者　大阪市東區博勞町四丁目廿七番邸　青木恒三郎

製本發賣所　東京市日本橋通壹丁目　青木嵩山堂

仝　大阪市心齋橋筋博勞町　青木嵩山堂

賣捌所　勢州四日市港竪町　嵩山堂支店

6279
36 3.14